

第2章

実践編

—指定中学校区における取組—

第2章では、平成30年度中1ギャップ問題未然防止事業に取り組んだ全道15地域の指定中学校区における中1ギャップ解消に向けた具体的な取組を紹介します。

I 指定中学校区の「中1ギャップ解消プラン」

II 指定中学校区における実践例

岩見沢市立東光中学校区における中1ギャップ解消プラン

中学校名 岩見沢市立東光中学校 (生徒数 345 名)
 小学校名 岩見沢市立東小学校 (児童数 337 名)
 岩見沢市立岩見沢小学校 (児童数 322 名)

本プランの特徴

- 「15の春に責任をもつ」を共通目標に、児童生徒の課題の共有及び小・中学校が連携した取組の実現に向け、毎月1回の連携協議会、各教科や道徳科における合同研修、学校改善研修を行っています。
- 「学習規律」、「生活規律」の校区3校統一を実施し、計画的な取組の推進に向けて「3校ロードマップ」、「3校家庭生活の決まり」、「3校生活の決まりと約束」を作成しました。
- 不登校未然防止のため小・中学校の円滑な接続及び入学前後の共感的な人間関係の構築、学習意欲向上を目指し、入学前の「小学校2校によるグループエンカウンター」や「秋の体験入学」、「中学校授業体験」、「情報モラル出前授業」を行っています。

1 推進地域の特徴

岩見沢市の最東部に位置し、校下は開基以来の老舗を含む商店街の大部分と開拓以来の東地区及び新造成地域である。保護者の教育についての関心は非常に高く、学校行事やPTA活動、各種ボランティアへの支援が厚い。また、岩見沢市は平成17年度から中学校の「学校選択制度」を実施しており、入学する学校を市内全ての中学校から選択することができ、東光中学校においても校区の2小学校をはじめ、複数の学校から児童が入学している。

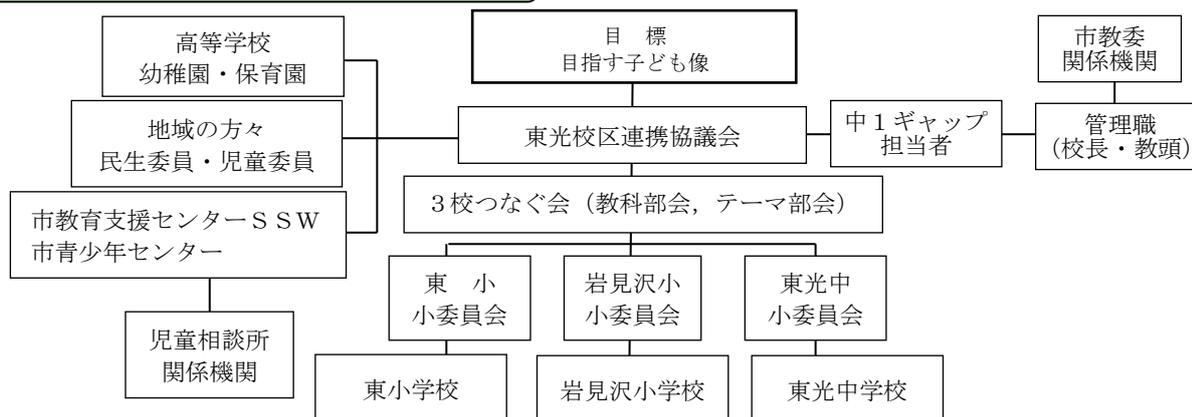
2 推進地域の課題

平成30年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙によると、「放課後や週末に家でテレビやDVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしている」が多く、「家庭学習の時間」「1日あたりの勉強時間」「家庭での読書の時間」が、3校とも少ない傾向が見られる。5年前、「話を聞く態度が身についていない」「自尊感情が低い」ことを3校の共通課題として確認するとともに、校区が一体となった対応について検討することが求められた。

3 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- 児童生徒の課題を改善するため、ゴールを明確にした共通・継続して取り組める具体的な教育活動を組織的に見出し、整備しながら、義務教育9年間の系統立てた指導の確立を図る。
- 生徒指導の三機能を活かすことで、学ぶ意欲を向上させ、確かな学力と豊かな人間性を育む。
- 楽しい学校生活を送るためのアンケート「hyper-QU」と子ども理解支援ツール「ほっと」の結果を共有するとともに、不登校児童生徒や支援を必要とする児童生徒の実態を交流し、小中一貫した指導の充実や改善を図る。

4 中1ギャップ検討委員会の組織



5 中1ギャップ解消プランの実際

毎月定例で小中連携会議（中1ギャップ検討委員会）を開催

時期	岩見沢市立東光中学校	岩見沢市立東小学校 岩見沢市立岩見沢小学校
3月	【年間計画の作成】 ○ 毎月の連携協議会、年間活動予定、新年度の重点の確認	
	【新入生徒に関する引継ぎ】 ○ 「ほっと」hyper-Q Uの結果を引継ぎ資料に加え、学習、生活、交友関係、家庭環境等の状況及び配慮事項について確認 ○ 個別の支援計画（進学支援シート）をもとに特別な教育的支援を必要とする児童についての情報の共有（学校生活管理指導表の引継ぎ含む）	
	【3年生卒業アルバム回覧～関わった全ての人で成長を喜び、連携の意識を高める】 ○ 校区の小学校、連携している幼稚園に出向き、卒業アルバム写真を供覧	
4月	○ 生徒指導方針、学校いじめ防止基本方針、緊急時の対応等の確認 ○ 生徒の状況（集団・個別）確認	○ 生徒指導方針、学校いじめ防止基本方針、緊急時の対応等の確認 ○ 児童の状況（集団・個別）確認
	【各校でのプレゼンテーション】 内容：東光校区の小中連携及び中1ギャップ問題未然防止事業の取組方針の確認 ○ 連携協議会の取組、これまでの成果と課題、今後の方向性等を教職員へ向けて発信	
	【授業交流①】 ○ 各校の授業参観に出向き、児童生徒を観察し、互いに感想等を交流	
	【東光校区3校生活の決まりと約束（校内外）をH30.4.1より施行】	
5月	○ 生徒指導研修① ・全学級より気になる生徒の資料提出	
6月	○ 「hyper-Q U」①、いじめアンケート①	○ 「hyper-Q U」①、いじめアンケート①
	【3校つなぐ会①教科部会】 ○ 3校全教員で教科部会を開き、授業改善をテーマに9年間の系統立てた指導のために情報交換及び意見交流を行う	
	【東光中学校 学校公開日】 ○ 小学校卒業担任を招待しての授業参観（校区職員の連携について生徒が認識）	
【中学校から小学校へ 卒業後の自分～子どもの成長を校区みんなで感じる～】 ○ 中学校全生徒が小学校へ顔写真付きの手紙を作成し送付、それぞれの卒業した小学校に掲示してもらい、児童、教職員、保護者に見てもらう		
7月	○ 進路相談 ○ 特別支援教育研修①	○ 生徒指導研修① ○ 生活・学習アンケート①の実施
	【授業交流②】 ○ 各校の授業参観に出向き、感想等を交流	
	【小学校へのフィードバック～生徒指導～】 ○ 6月に実施した中学校の生徒指導交流会の資料（気になる生徒）を小学校に配付	
	【生徒理解支援ツール「ほっと」①】 ○ 小・中学校で実施	
【中学校から小学校への乗り入れ授業】 ○ 岩見沢小学校5年生児童を対象に中学校の教職員による「情報モラル」授業実施		
8月	【児童・生徒交流①】【小中の引継ぎ①】 ○ 中1及び小6の児童生徒の状況について学級担任を中心に交流	
	【児童生徒の自殺予防に関する普及啓発会議に校区3校で参加】	
	【集団カウンセリング研修会1回目に校区3校で参加】	

様式 1

9月	【東光中学校 秋の1日体験入学、部活動体験】 ○ 小6の授業参観・校舎見学・部活動体験・中学校から講話・合唱披露 ○ 小学校間のグループエンカウンター実施（自己紹介を兼ねた名刺交換ゲーム）	
	【3校つなぐ会② 教科部会，テーマ部会】 ○ 3校全教職員で教科部会における、授業改善をテーマに9年間の系統立てた指導に向けた情報交換及び意見交流 ○ 小学校の教職員による部会運営における小中の連携に関する学校改善に向けた取組に関するテーマ毎の協議	
10月	○ いじめアンケート②の実施 教育相談週間	○ いじめアンケート②の実施
	【秋の1日体験入学の全児童感想用紙を校区3校に掲示し交流】	
	【中1ギャップ加配教諭担当による講演】 ○ 民生委員、児童委員を対象にした「情報モラル」「ゲームが与える脳・身体・心への影響」の講話及び連携協議会で交流された情報の発信、地域への協働依頼	
11月	○ 「hyper-QU」②実施及び変容・分析 ○ 生徒指導研修 ②気になる生徒の変容	○ 「hyper-QU」② 実施及び変容・分析 ○ 生徒指導交流会①
	【3校合同研修】 ○ 京都「道徳祭り」に参加 ○ 校区の道徳実践を発表	
	【3校合同道徳研修】【授業交流③】 ○ 研究授業・参観・研究協議 講師（毛利豊和氏）示範授業及び講演	
	【3校つなぐ会③ テーマ部会】 ○ 3校全教職員参加の教科部会における9年間の系統立てた授業改善に向けた情報交換及び意見交流	
12月		○ 生活・学習アンケート②の実施
	【3校長による来年度の重点提示】	
	【児童・生徒交流②】【小中の引継ぎ②】 ○ 小6児童の学習面、生活面、家庭環境で特に心配な児童の交流	
	【中学校から小学校への乗り入れ授業】 ○ 岩見沢小学校6年生児童を対象に中学校教員による「情報モラル」授業実施	
1月		○ 生徒指導研修②、生徒指導交流会② ○ 特別支援教育研修②
	【ロードマップの検討・協議・修正】 ○ 発達の段階に応じゴールを明確にした各ステップの目標設定 ・学習規律・家庭学習・話を聴く力（受容）・話す力（発信）・校内外生活・家庭生活	
2月	○ いじめアンケート③の実施	○ いじめアンケート③の実施
	【東光中学校新入生入学説明会】 ○ 中学校入学に向けた心構えの説明、講話、合唱披露 ○ 中学校の授業を体験（小学校からの教科の希望等を集約し4教科の授業を実施）	
	【生徒理解支援ツール「ほっと」②】 小・中学校で実施	
	【児童・生徒交流③】【小中の引継ぎ③】 ○ 小6の状況を学級担任中心に交流（特別支援及び特別な配慮を要する児童含む）	
		【小・中学校から地域への啓発活動】 地域の青少年健全育成会議で情報モラル等の啓発
3月	○ 生徒指導研修③	
	【年間計画の確定】 ○ 年間活動予定、新年度の重点の確認、3校つなぐ会における次年度の計画	
	【新入生引継ぎ④】 ○ 「hyper-QU」「ほっと」資料引継ぎ（学習、生活、交友関係、家庭環境等）	

6 事業の成果

- 小・中学校間で児童生徒が中学校生活をよりよく開始できるよう、環境づくりに努めたことにより「学校は、生徒が意欲的に学ぶための工夫・改善をし、学びに向かう力を育成していると思う」と回答した生徒及び保護者の割合が前年度より高くなった。

また、小・中学校間で学習規律・生活規律の統一を図ったことにより、「学校は、挨拶、礼儀、傾聴、規則遵守、整理整頓、清潔・安全の定着に努めていると思う」と回答した生徒、保護者の割合が前年度を上回り 8 割を超えた。

設 問 項 目	対 象	H30	H29
学校は、生徒が意欲的に学ぶための工夫・改善をし、学びに向かう力を育成していると思いますか。	全校生徒	82.9%	69.4%
	保護者	68.1%	63.3%
学校は、挨拶、礼儀、傾聴、規則遵守、整理整頓、清潔・安全の定着に努めていると思いますか。	全校生徒	85.3%	73.6%
	保護者	86.6%	83.0%

【平成30年度岩見沢市立東光中学校関係者評価アンケートから抜粋（肯定的な回答の割合）】

- 今年度の中学 1 年生においては、6 年生段階で 1 名不登校生徒（6 年間で登校 5 日）がいたが、中学校入学後に登校できるようになった。（中 1：特別支援学級在籍 欠席 2 日、12/1 現在）
- 2 月の入学説明会において、小学校 2 校の児童が国語、数学、理科、英語の 4 教科から選択し、中学校の授業を体験した。入学式前に新しい仲間と仮の学級を編成し授業を受けることにより、中学校の新しい仲間との関係づくりだけでなく、教職員との関係づくりのきっかけにもなっていた。
- 特別の教科道徳の授業改善に向けて、昨年に続き校区 3 校で、京都市教育委員会教育相談総合センター専門主事の毛利豊和氏を講師に招き示範授業及び授業公開を行った。また昨年から継続して研究を重ねてきた成果を、京都で行われた「京都道徳祭り」において発表した。



2 月の入学説明会でされる中学校の授業体験の様子
英語科（英語でコミュニケーション） 理科（顕微鏡で観察）



「3 校合同道徳示範授業」「示範授業後の講師講演会」
「京都道徳祭り」で校区の取組をプレゼンテーションする

7 今後の課題

- 不登校生徒は、昨年度 8 名（中 1：1 名、中 2：3 名、中 3：4 名）から今年度 6 名（中 1：1 名、中 2：1 名、中 3 年：4 名）と減少している。今後も不登校生徒への早期対応と未然防止に努めるとともに、PDCA 及び GPAC サイクルにより短いスパンで改善を図り、より実効性のある取組にする必要がある。
- 「15 の春に責任を持つロードマップ」「3 校家庭生活の決まり」は、作成することが目的ではないことから、学校や地域の実態や社会の変化に応じて適宜改訂する必要がある。
- 中 1 ギャップの未然防止及び、校区の小中連携の取組を継続し、定着させるために、全教職員でビジョンを共有する必要がある。

◇◇◇ 中 1 ギャップを解消するための本推進地域からの提言 ◇◇◇

★ 小・中学校の緊密な連携体制の整備を進め、目指す子ども像の共有を図る

中 1 ギャップを解消するためには、小中連携を推進することが不可欠であることから、ゴールを明確にするために「15 の春に責任を持つロードマップ」「3 校家庭生活の決まり」今年度から「東光中学校校区 3 校生活の決まりと約束」を作成した。

★ 中 1 ギャップ未然防止及び小・中学校の連携に、校区の全職員が関われる仕組みを作る

今年度より、校区全教職員が所属する 3 校つなぐ会を組織し、教科部会及びテーマ部会で 4 回の合同研修を行った。

★ 計画的・組織的に児童生徒の人間関係を構築する力の育成を推進する

入学前に実施する授業交流や乗り入れ授業、1 日体験入学、入学説明会でのエンカウンター、合同研修等を 3 校の教育課程に位置付け、計画的・組織的な教育活動を推進する。

★ 各種調査や支援ツールを活用した児童生徒の学校生活への適応状況の把握と適切な支援

各種調査や児童生徒理解の支援ツールを用いた不登校やいじめの早期発見、早期対応に取り組む。

滝川市立明苑中学校区における中1ギャップ解消プラン

中学校名	滝川市立明苑中学校	(生徒数 388 名)
小学校名	滝川市立滝川第三小学校	(児童数 357 名)
	滝川市立東小学校	(児童数 499 名)

- ### 本プランの特徴
- 中学校入学への不安の解消を図るために、中学校教職員による小学校外国語活動の乗り入れ授業を週1回行っています。
 - 「小中連携検討委員会」を定期的に関催し、3校の学習や生徒指導等の情報共有を行っています。
 - 小学校学習会への中学生派遣及び中学校行事への小学生招待等、異学年交流を進めています。

1 推進地域の特徴

3校の所在する地域は滝川市の東地区に位置し、保育所から大学までの教育施設があり、滝川の文教地区とされている。郊外型の大型店舗が点在し、住宅も新たに建設され、市内でも人口が増えている地区である。校下保護者の教育への関心は非常に高く、参観日等の学校行事への参加、各種ボランティアへの地域の支援も厚い。滝川第三小学校、東小学校から入学してくる明苑中学校は、空知管内において2番目に生徒数の多い中学校である。

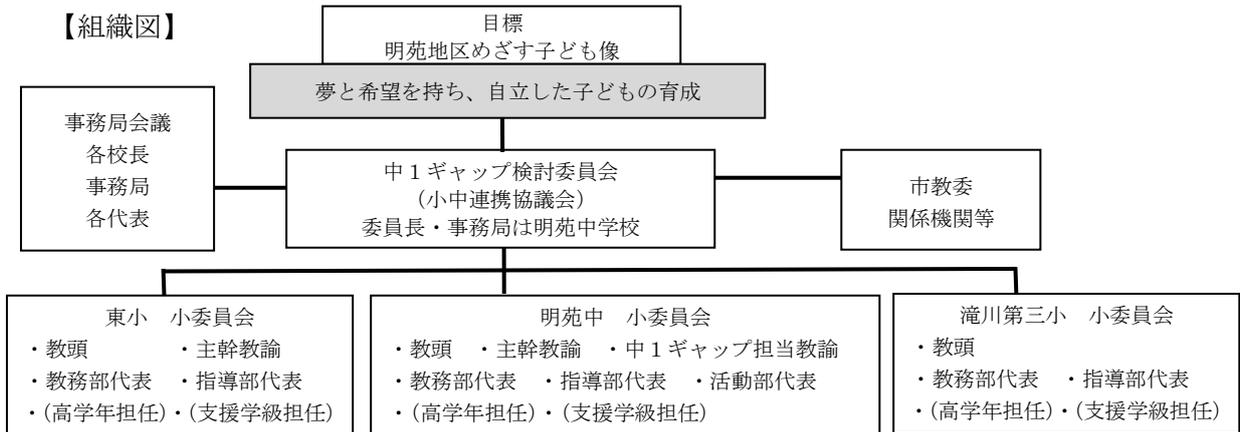
2 推進地域の課題

素直で明るく社交的な生徒が多く、授業に対しても良好な態度で臨み、学びへの意欲は高い。一方で、自尊感情（自己肯定感）が低い傾向が続き、これは学力を含めて校区小・中学校の共通課題である。また、校区内には大型店舗も多数あり、交通量が非常に多い国道をはじめとする幹線道路が通っているため、交通安全指導を含めた生徒指導が重要な地域である。

3 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- 「夢と希望を持ち、自立した子どもの育成」（3校『めざす子ども像』）
- (1) 子どもの自尊感情を高める取組を3校で連携して策定し、結束して取り組むことを目指す。
 - (2) 子ども同士、教員同士、保護者同士、それぞれのつながりを意識した取組を図る。

4 中1ギャップ検討委員会の組織



5 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	滝川市立明苑中学校	滝川市立滝川第三小学校・滝川市立東小学校
3月	<p>【中学校入学への引継ぎ会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習・生活・人間関係・家庭環境等の状況や配慮事項の確認 ○ アレルギーや特別な支援を要する生徒の確認と指導方針の周知 	
4月	<p>【事務局会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 組織立ち上げ・年間計画・活動の重点の確認 	
	<p>【乗り入れ授業開始】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校外国語担当教職員による5・6年を対象とした小学校外国語活動 (滝川第三小週当たり4時間・東小週当たり5時間) 	
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 参観日・懇談会 ○ 保護者へ事業の説明 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 参観日・懇談会 ○ 保護者へ事業の説明(特に乗り入れ授業)
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各種調査分析 ・全国学力・学習状況調査 ・標準学力検査等 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各種調査分析 ・全国学力・学習状況調査 ・標準学力検査・知能検査等
6月	<p>【中1ギャップ 定例検討委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 目指す子ども像の決定 ○ 生徒指導交流 ○ 各種調査分析の交流 ○ 夏休み小学校学習会へ向けて 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめアンケートの実施 ○ 「hyper-QU」の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめアンケートの実施
7月	<p>【小学校学習会への中学生への派遣】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 夏季休業中に実施する小学校学習会において、中学生を学習支援員として2校へ派遣 	
	<p>【生徒理解スキルアップ研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 外部講師を招いて、3校教職員による生徒指導や不登校・いじめ対策研修の開催 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 入学3か月後アンケート配付 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国学力・学習状況調査結果分析 ○ 「hyper-QU」結果分析 ○ 「小中連携だより」(第1号)発行 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国学力・学習状況調査結果分析
9月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「小中連携だより」(第2号)発行 	
10月	<p>【職場体験実習における小学校訪問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校2校による中学2年生の職場体験の受け入れ 	
	<p>【中1ギャップ定例検討委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全国学力・学習状況調査結果の交流 ○ 生徒指導交流 ○ 中学校いじめ撲滅集会の小学生参加に向けて ○ 3校学習強調週間に向けて 	

様式 1

<p>11月</p>	<p>【中学校 いじめ撲滅集会への小学校6年生参加】 ○ 生徒会主催行事における校区小学校6年生の参加による、いじめ撲滅スローガンの採択及び感想交流</p> <p>【中1ギャップ運営協議会および定例検討委員会】 ○ 集会の交流と反省 ○ 生徒指導交流 ○ 体験入学へ向けて</p> <p>○ いじめアンケートの実施 ○ 「小中連携だより」(第3号)発行 ○ 「hyper-QU」(2回目)実施</p>	<p>○ いじめアンケートの実施</p>
<p>12月</p>	<p>【小学校学習会への中学生の派遣】 ○ 冬季休業中に実施する小学校学習会において、中学生を学習支援員として2校へ派遣</p> <p>○ 「小中連携だより」(第4号)発行</p>	
<p>1月</p>	<p>○ 新入生保護者説明会</p>	
<p>2月</p>	<p>【中1ギャップ 定例検討委員会】 ○ 1年間の反省と次年度に向けて ○ 生徒指導交流</p> <p>【新入生体験入学】 ○ 小学校6年生による中学校への体験入学及び生徒会執行部との交流</p> <p>○ 入学前アンケート(児童・保護者)</p>	
<p>3月</p>	<p>○ 「小中連携だより」(第5号)発行</p> <p>【中学校入学への引継ぎ会】 ○ 学習・生活・人間関係・家庭環境等の状況や配慮事項の確認</p>	

6 事業の成果

〔入学前：小6の2月〕

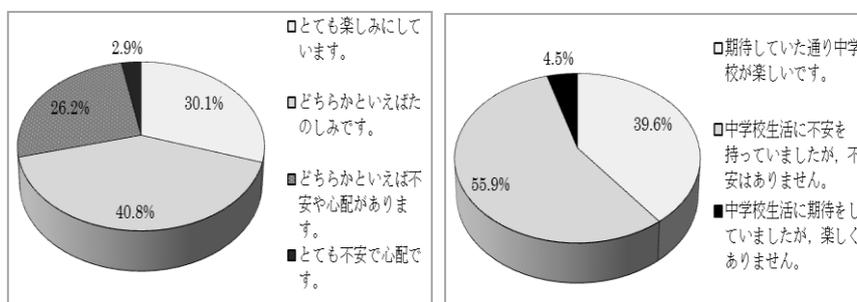
〔入学後：中1の7月〕

従来から行っていた小中連携の取組を今年度から組織的かつ体系的に行ったことにより、入学前と入学後のアンケート数値が右記のような結果となった。

入学前の児童の約30%が心配や不安を感じていたが、入学の

3か月後に行ったアンケートでは、ほとんどの生徒の不安が解消した。

今後は、乗り入れ授業や生徒同士の交流をさらに進めることにより、小学校段階での不安の減少を目指して取組を強化する。



7 今後の課題

- 乗り入れ授業の展開により、中学校の授業スタイルが小学校に浸透しつつあるが、学校間、教職員間で取組に差が見られることから、今後は3校共通とした学習規律及び授業スタイルを確立する必要がある。
- コミュニティ・スクール導入に向けて、地域全体で課題を把握し、外部人材等を活用した取組を推進する必要がある。
- 人間関係づくりやいじめ問題等への対応など、3校による情報共有を一層図り、校区の全教職員による合同研修等を実施することにより、教職員の共通理解を深め、より実効性のある取組とする必要がある。

◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本推進地域からの提言 ◇◇◇

★ 未然防止～児童生徒の所属感を高める取組

教職員と子どもとの関わり、子ども同士の関わりを意識し、一人一人が学校に居場所を実感できる取組を推進することが大切であることから、子どもにとって分かる授業、できる授業のための授業改善を小・中学校が連携して実践する。また、子ども同士の交流行事を設定し、横のつながりだけでなく、縦のつながりを意識した人間関係づくりを推進する。

★ 早期発見・早期対応～各種調査の有効活用

いじめアンケートや「hyper-Q U」等から課題を把握し、指導に役立てる。また、いじめ発見へのアンテナを高くするために、授業時間の内外を問わず児童生徒に寄り添うことに努める。

★ 日常化された情報共有～小中連携の「一丁目一番地」

小・中学校の生徒指導に関する情報交流を、定例検討委員会に位置付けることにより、日常の生徒指導に関する情報を共有する。また、乗り入れ授業を実施することにより、小・中学校が連携して生徒指導や学習指導について共通理解を深めるようにする。

石狩市立樽川中学校区における中1ギャップ解消プラン

中学校名 石狩市立樽川中学校（生徒数 481 名）
 小学校名 石狩市立南線小学校（児童数 926 名）

本プランの特徴

- 小・中学校の円滑な接続を目指して、学習環境、学習規律、授業改善、家庭学習等について連携を図り、9年間を見通した学習指導を行っています。
- 町内会、地域と連携した「小中合同校区内清掃」の実施や、小中合同 PTA 行事の開催など、学校と家庭、地域が一体となった取組を推進しています。
- 既存の取組（石狩市全体で取り組む「Q-U」の実施、小中連携研究会、詳細な引継ぎ等）を充実させ、小・中学校の連携を強化するとともに、児童生徒理解のさらなる充実を図ることにより、いじめの問題や不登校の未然防止に努めています。

1 推進地域の特徴

石狩管内唯一の海に面する石狩市は、人口が約 6 万人で、海岸線に沿って南北に長い市域をもつ。市の南部に位置する樽川地区は、札幌市に隣接するという立地条件のよさなどから、宅地が造成され、住民の増加が進んでいる。

樽川中学校は、花川南地区の生徒の急増から、石狩市の 5 番目の中学校として平成 7 年に開校した。中学校区の小学校は、南線小学校 1 校のみであるが、900 名を超える大規模校である。児童生徒や家庭は地域に対する深い愛着を抱きながら生活している。

2 推進地域の課題

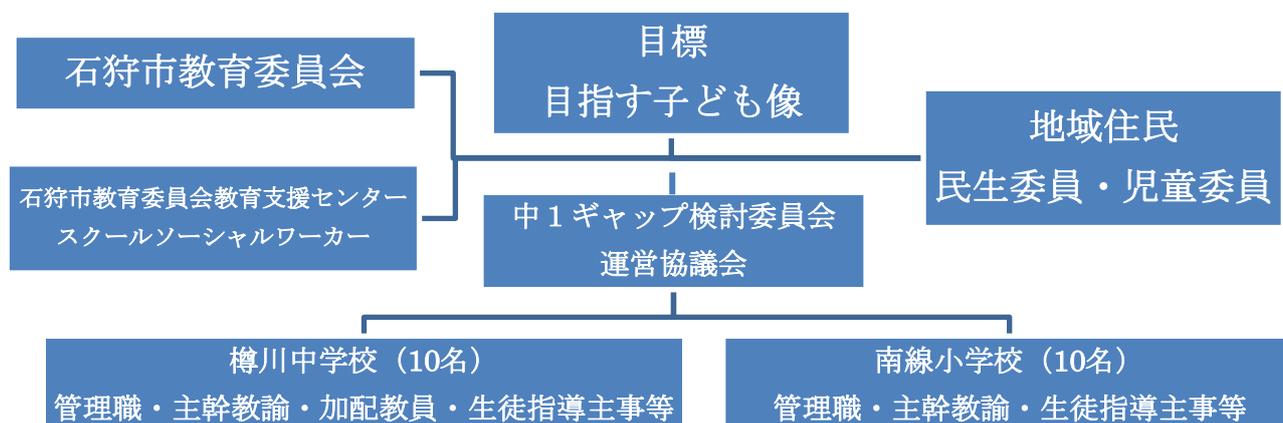
樽川中学校区の児童生徒は、小学校入学時から 9 年間、人間関係や生活環境に大きな変化がないことから、自分の意思を明確に相手に伝えることや、新たな課題や困難な局面に対峙することを苦手としている状況が見られる。

また、一度こじれた人間関係を修復することができなかつたり、学習への躓きに対応できなかつたりすることなどを理由として、中学校入学後に不登校傾向となる生徒は、全体の約 3 % である。このような状況を改善するためには、学力向上に向けた小・中学校の連携の促進や、家庭や地域等との情報共有を一層図る必要がある。

3 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- 出前授業の実施や小・中学校合冊「家庭学習の手引き」の作成・配付、授業改善等支援事業による学習規律の徹底、授業改善の取組の充実
- 授業参観や各種学校行事の交流、学校と家庭、地域が一体となった各種取組の推進
- 石狩市全体で取組を進めている「Q-U」の活用や小中連携研究会による実態交流、詳細な引継ぎ等による児童生徒理解の充実

4 中1ギャップ検討委員会の組織



※加配教員は、小・中学校及び関係機関等の連絡調整等

5 中1ギャップ解消プランの実際

※ は、小中連携の取組

時期	樽川中学校	南線小学校
3月	【中学校の新入学生に関わる詳細な引継ぎ】 ・学習、生活、交友関係、家庭環境などの状況及び配慮事項について情報共有 ・特別な支援を必要とする児童の実態や効果的な支援策について情報共有 ・食物アレルギーに関して特別な配慮を必要とする児童への対応について情報共有	
	【「春休み帳」の配付と指導】 ・新年度の学校生活に向けて、目的を明確にさせるための「春休み帳」の配付 ・規則正しい生活習慣と家庭学習習慣の確立を目指した取組 ・小学校における「春休み帳」の配付と児童への指導	
4月	【中1ギャップ検討委員会の設置】 ・校内組織の確立 ・不登校傾向の児童生徒、特別な教育的支援が必要な児童生徒について情報共有 ・関係機関との連携	
	【「家庭学習の手引き」の作成、合冊、配付】 ・基礎・基本の定着を目指した家庭学習習慣の確立 ・南線小学校：低・中・高学年別、樽川中学校：学年別にそれぞれ手引きを作成し、小・中合同の「家庭学習の手引き」として、印刷・製本、全児童生徒へ配付	
	○ 数学科における習熟度別少人数指導 ○ お迎えテストの実施 ・実態把握、授業改善の取組 ○ 道徳の時間の充実（年間を通じて）	○ 算数科におけるTTによる指導、習熟度別少人数指導 ・学習内容に応じて、T1～T4の教員による指導
5月	【中1ギャップ問題未然防止事業 第1回運営協議会】 ・事業目的、内容、重点目標の確認 ・年間推進計画の確認	
	【両校のPTAを交えたPTA交流会の実施①】 ・実態交流、連携強化	
	○ いじめアンケートの実施（5月、11月） ・いじめの実態把握、未然防止	○ いじめアンケートの実施（5月、11月） ・いじめの実態把握、未然防止
6月	【第1回 中1ギャップ検討委員会】 ・実施計画の検討 【小中合同校区内清掃】 ・町内会ごとのグループに分かれて清掃活動	
	○ 「Q-U」の実施（6月、12月） ・生徒個人、学級集団の適応状況の把握 ・分析結果の環流 ・集団づくり、個別指導の検討	○ 「Q-U」の実施（6月、12月） ・児童個人、学級集団の適応状況の把握 ・分析結果の環流 ・集団づくり、個別指導の検討 ○ 全校一斉で国・算テストを実施 ・学習に対する意欲の向上、実態把握



様式 1

7月	【第2回 中1ギャップ検討委員会】 ・実施計画の改善に向けた協議	
	○ 長期休業中の補習学習会の実施	○ 長期休業中の補習学習会の実施
8月	【特別支援学級合同学習】 ・調理実習、スポーツ交流	
9月	【南線小スタンダード・樽川中スタンダードの作成・交流】	
		○ 学校生活・授業アンケートの実施 ・学校生活や学習の様子に関する実態把握
10月	【第3回 中1ギャップ検討委員会】 ・取組の進捗状況の確認、実施計画の改善に向けた協議	
	○ 部活動見学 ・吹奏楽部定期演奏会の案内 ○ 特別支援教育保護者説明会 ・特別支援教育コーディネーターから小学校の保護者への説明	 <p>【授業参観の様子】</p>
11月	【中1ギャップ問題未然防止事業 第2回運営協議会】 ・中学校における授業参観 ・事業進捗状況の確認、効果の検証 ・今後の事業予定の確認と事業推進上の課題に関する協議	
	【石狩市小中連携研究会】 ・授業参観、実態交流、共通理解、連携強化	
	【両校のPTAを交えたPTA交流会の実施②】 ・実態交流、連携強化	
12月	○ 幼・保・中による連携 ・家庭科の授業として保育実習を実施	【中学校教員による出前授業】 ・南線小学校で中学校教員による授業を実施：第6学年全学級を対象とした体育科授業
1月	○ 長期休業中の補習学習会の実施	○ 長期休業中の補習授業の実施
2月	【新入学生学校説明会】 ※南線小学校で開催 ・新入学生及び家庭を対象とした説明会、情報モラルについての講話	
	【中学校体験授業・中学校教員による出前授業】 ・樽川中学校で中学校教員による授業の実施：第6学年全学級を対象とした外国語活動 ・南線小学校で中学校教員による授業の実施：第6学年全学級を対象とした音楽科	
	【第4回 中1ギャップ検討委員会】 ・年度末反省	
		○ 学校生活・授業アンケートの実施 ・学校生活や学習の様子に関する実態把握

6 事業の成果

- 「中1学力向上プロジェクト」の取組として、加配教員が数学科の練習プリントの活用を提案し、実施した。授業で扱った学習内容を繰り返し練習させ、定着を図る取組を行ったことにより、チャレンジテストの結果において、正答率が全道平均を大きく上回る問題が増えてきている。

【第2回チャレンジテスト 数学科】

正答率	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	平均
道内全体[%]	89.7	90.2	85.9	44	36.6	91.1	89.5	77.6	80.9	94.9	86.3	65.4	50.3	62.8	39.2	72.3
石狩教育局[%]	89.6	91.1	86.6	44.7	36.2	91.2	90.5	81.3	82.9	95.9	89.2	65.7	50.6	65.6	42.5	73.6
石狩市教育委員会[%]	86.2	89.6	79.8	44	34.2	91.2	87.8	77.2	80.2	94.6	85.8	67.2	50.4	62.4	34	71
石狩市立樽川中学校[%]	83.2	89.5	83.2	39.2	26.6	86.7	85.3	80.4	76.2	90.2	81.8	81.1	60.1	63.6	39.9	71.1

【第4回チャレンジテスト 数学科】

正答率	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	平均
道内全体[%]	82.2	52.8	36.8	37.7	46.5	61.1	49.6	46.5	74.3	31.9	64.8	33.9	47.1	57.1	22.3	49.6
石狩教育局[%]	86.1	56.7	40.6	41.2	49.9	61.9	53.6	48.5	74.7	33	66.2	36.5	47.7	62.9	26	52.4
石狩市教育委員会[%]	78.8	52.3	37.1	35.3	46.1	62.4	57.9	49	70.7	27.8	59.3	27.8	38.6	55	19.7	47.9
石狩市立樽川中学校[%]	79.1	48.9	42.4	53.2	45.3	71.2	66.2	56.8	67.6	22.3	43.2	20.1	36.7	59	7.9	48

- 小学校第6学年児童を対象に、中学校教員による体育科、音楽科、外国語活動の出前授業を行ったことにより、児童の中学校の学習に対する興味・関心が高まり、中学校の授業に対する緊張も和らげることができた。特に外国語活動においては、中学校の教室で中学校の授業内容や学習規律などを体験することができ、中学校進学に対する不安の解消につなげることができた。
- 「南樽一貫教育」、「南線小・樽川中スタンダード」を作成、配付することにより、義務教育9年間を通して、学校や家庭、地域で、どのような児童生徒を育成するのかを共有することができた。
- 加配教員と特別支援教育コーディネーターが中心となり、石狩市教育委員会教育支援センター、スクールソーシャルワーカー等との連携を図ったことにより、不登校の未然防止や早期発見、早期対応に努めることができ、昨年度に比べて、5名の不登校が解消された。

7 今後の課題

- 小・中学校のさらなる円滑な接続を確立するために、小・中学校の全学級における学習規律や学習指導の徹底を図りながら、授業改善の取組を推進する必要がある。
- 数学科のチャレンジテストの結果から、基礎・基本の定着に一定の成果があったが、基礎・基本を活用する問題に課題が見られることから、課題を踏まえ、日常の授業改善を推進する必要がある。
- 出前授業を相互に乗り入れる交流授業へ発展するとともに、中学校のテスト週間に小・中学校が連携して家庭学習の取組を励行するなど、教育課程の編成について交流や検討する必要がある。
- 学校と家庭、地域の連携を一層深め、心豊かな児童生徒の育成に向けた教育活動を行う必要がある。

◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本推進地域からの提言 ◇◇◇

★ 義務教育9年間で「目指す子ども像」の共有～小中連携の強化～

中1ギャップ問題や不登校の未然防止には、学校と家庭、地域が、義務教育9年間で「目指す子ども像」を共有し、生活指導や学習指導を行うことが重要である。そのため、日常的な情報交換や情報共有等によって共通理解を図りながら、学校と家庭、地域が連携した取組を推進することが大切である。

★ 児童生徒の自己有用感や中学校生活に対する関心・意欲を高める取組

小・中学校で学習規律や学習指導の徹底や、日常の授業改善の推進により、児童生徒に確かな学力を身に付けさせ、自己有用感を高めるとともに、「Q-U」等の結果分析に基づき、児童生徒の実態を把握した上で、各学校の教育課程と関連させながら、出前授業や交流授業の在り方、新入学生学校説明会等の内容を工夫することにより、児童に中学校の生活や学習に興味・関心をもたせることが大切である。

小樽市立朝里中学校区における中1ギャップ解消プラン

中学校名 小樽市立朝里中学校（生徒数 291 名）
 小学校名 小樽市立朝里小学校（児童数 500 名）
 小樽市立豊倉小学校（児童数 8 名）

本プランの特徴

- 不登校の未然防止や人間関係のトラブルの早期発見、対応及び情報の共有化を行っています。
- 「15の春に責任をもつ」を合い言葉に、小中連携及び小小連携の充実に向けて、定期的に「小中連携協議会」を開催するとともに、小・中教職員による合同の研修会や交流会を行っています。
- 中学校進学への不安を解消し、中学校への円滑な接続を図るため、中学校教員による小学校2校合同の出前授業や小学校第6学年児童が中学校の行事を参観する場面を設定しています。

1 推進地域の特徴

朝里中学校は、小樽市の東部に位置し、朝里・新光・朝里川温泉地区にまたがり、四季を通じて自然環境が整っている。本校区には、学級数が2学級（複式）である豊倉小学校と学級数が19学級である朝里小学校の2つの小学校があり、新入生の9割以上が朝里小学校の児童である。地域の教育に対する関心や期待は高く協力的であり、「まちづくりの会」などと連携したPTA活動が行われている。

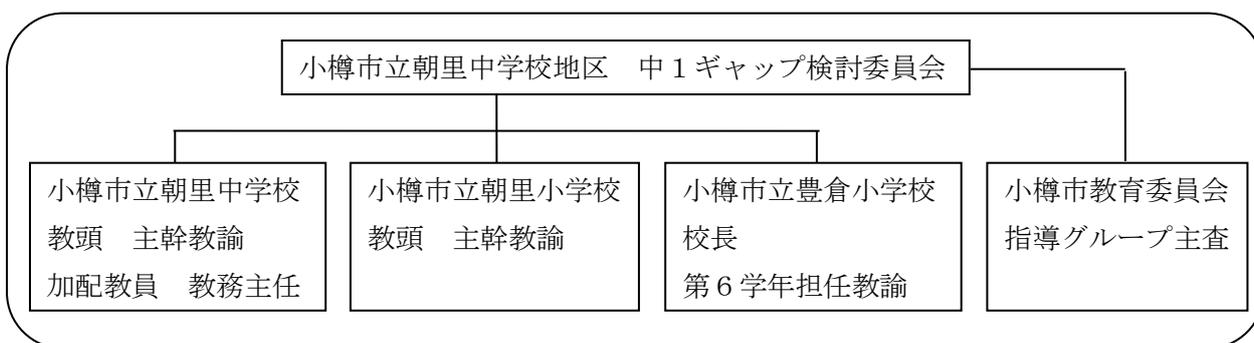
2 推進地域の課題

全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査によると、携帯電話、スマートフォンの所持率が高く、改善傾向にはあるものの、依然として使用時間が長く、SNSによるトラブルなどの生徒指導上の問題もあり、発達の段階を踏まえ、小学校と連携した道徳教育や情報モラル教育の取組を行う必要がある。また、学力面においては、二極化が顕著に見られ、基礎学力が定着していない生徒の割合が高いことから、小中学校間における情報の共有や一貫性のある指導体制を確立する必要がある。

3 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- (1) 人間関係づくりの能力の育成を主眼として、進級に伴う環境の変化等に適応することができる児童生徒の育成を図る。
- (2) 義務教育9年間を系統立てた指導の確立を図る。

4 中1ギャップ検討委員会の組織



様式 1

①中学校における業務分担の明確化

担 当	業 務 内 容
教 頭	連絡協議会の日程調整、各種事業の日程調整、市教委・校内委員会・外部機関との連絡・調整
主幹教諭	事業計画立案・運営、各係との連絡・調整、いじめ防止、自殺予防プログラムの推進
加配教員	地域との連携推進、校内事業の企画・立案・運営、「ほっと」活用推進、引継ぎ

②小学校における業務分担の明確化

- ・朝里小学校 教頭…他校との連絡調整、校内における連絡調整、主幹教諭…校内事業の企画・立案
- ・豊倉小学校 校長…他校との連絡調整、担任…校内事業の企画・立案

5 中1ギャップ解消プランの実際

～小中連携の取組

時 期	朝里中学校	朝里小学校・豊倉小学校
4月	【小・中連絡協議会①】 <input type="checkbox"/> 事業の概要について日程調整 <input type="checkbox"/> 各校の特色の交流	
5月	<input type="checkbox"/> 「ほっと」1回目実施	
6月	<input type="checkbox"/> 朝里小・豊倉小学校の運動会参加 <input type="checkbox"/> いじめアンケート実施	<input type="checkbox"/> いじめアンケート実施 <input type="checkbox"/> 朝里中学校公開研究会参加
	【小・中連絡協議会②】 <input type="checkbox"/> 学力・体力向上プランの交流 <input type="checkbox"/> 出前授業の調整	
	【実用英語検定】 <input type="checkbox"/> 小学校児童にも案内、中学校を準会場として実施	
7月	<input type="checkbox"/> 情報モラル教室	<input type="checkbox"/> 情報モラル教室参加の案内
	【地域懇談会】 <input type="checkbox"/> 各校校長による学校経営方針等の説明 <input type="checkbox"/> 学校と地域住民による中1ギャップ問題未然防止に係る取組についての意見交流 <input type="checkbox"/> 「地域の子どもたちの良いところ、望む姿」を考えるワークショップの実施	
	<input type="checkbox"/> 吹奏楽部の朝里小学校への出前演奏会	<input type="checkbox"/> 朝里小学校での演奏会に豊倉小学校児童も参加
	【潮ねりこみ】 <input type="checkbox"/> ねらい：学校・地域、保護者が連携し、子どもたちを共に育てていく雰囲気醸成する <input type="checkbox"/> 期 日：平成30年7月28日（土） <input type="checkbox"/> 参加者：小・中児童生徒、教職員、保護者等約250名	
8月	<input type="checkbox"/> 小・中学校教員交流会	
9月	【小・中連絡協議会③】 <input type="checkbox"/> 全国学力・学習状況調査の分析、交流 <input type="checkbox"/> 運営協議会開催について学習・生活規律の交流 <input type="checkbox"/> 小中・小小連携事業について	
	<input type="checkbox"/> 地域行事への参加（祭り、マラソンなど）	

<p>10月</p>	<p style="text-align: center;">【出前授業】</p> <p>○ ねらい：第6学年に対して中学校の授業スタイルや雰囲気を理解させるとともに、中学校の教員が、児童の実態や各小学校における学習規律等を把握する。</p> <p>○ 内 容 ・保健体育：朝里小学校において、体育領域（球技）についての授業を中学校保健体育科教員1名が第5、6学年で実施（両校児童が参加）</p> <p>○ いじめアンケート、ほっとプラス実施</p> <p style="text-align: center;">【吹奏楽部 定期演奏会】</p> <p>○ 吹奏楽部が演奏会を実施（両校児童、保護者、地域にも案内）</p> <p style="text-align: center;">【三校交流 PTAミニバレー大会】</p> <p>○ 3校混合のチームを編成し、ミニバレーをとおした保護者間の交流</p> <p style="text-align: center;">【実用英語検定】</p> <p>○ 小学校児童にも案内、中学校を準会場として実施</p> <p style="text-align: center;">【中学校一日体験入学】</p> <p>○ 保護者説明会、授業参観、校舎見学</p>
<p>11月</p>	<p style="text-align: center;">【児童会・生徒会意見交流会】</p> <p>○ 小樽市「いじめ防止サミット」に向けた意見の交流</p> <p>○ 朝里小・豊倉小学校公開研究会参加</p> <p>○ 先進校視察研修（岩内第二中学校）</p> <p>○ 「ほっと」2回目実施（第1、2学年）</p>
<p>12月</p>	<p style="text-align: center;">【小・中連携協議会④】</p> <p>○ 教育課程の連携 ○ 次年度に向けて ○ 報告書作成について</p> <p style="text-align: center;">【出前授業】</p> <p>○ 内 容 ・外国語活動：朝里小学校において、英語で指示をして体を動かすなどの授業を中学校英語科教員2名及びALTが実施</p>
<p>1月</p>	<p style="text-align: center;">【教職員研修会】</p> <p>○ コミュニティ・スクールコーディネーターによる教職員研修会の実施</p> <p style="text-align: center;">【小・中連携協議会⑤】</p> <p>○ 小・中教員の交流、引継ぎ ○ その他</p> <p style="text-align: center;">【小学校、中学校教職員交流会】</p> <p>○ 第1学年の授業を参観、関係教職員の懇談</p> <p>○ 「ほっと」3回目実施</p> <p>○ 「ほっとプラス」実施</p> <p style="text-align: center;">【実用英語検定】</p> <p>○ 小学校児童にも案内、中学校を準会場として実施</p>
<p>2月</p>	<p style="text-align: center;">【朝里小学校、豊倉小学校におけるスキー授業】</p> <p>○ 中学校教員が指導者として参加</p>
<p>3月</p>	<p style="text-align: center;">【小・中連携協議会⑥】</p> <p>○ 今年度の反省 ○ 次年度の「中一ギャップ問題未然防止事業」計画</p> <p>○ 教育課程の連携、日程調整 ○ 教職員研修など</p> <p>○ いじめアンケート等を活用した確実な引継ぎの実施</p> <p style="text-align: right;">○ いじめアンケート等を活用した確実な引継ぎの実施</p>

6 事業の成果

- 昨年度、手探りの中、「中1ギャップ問題解消」という目的に照らし合わせ、各行事のねらいや活動内容等を整理し、活動を推進することができた。今年度は、加配教員を中心に、1年間の経験を踏まえ、小学校、中学校そして地域のニーズをしっかりと把握し、所有する財産（人材、能力、時間、費用など）を効果的に組み合わせて、事業を構築し、展開してきた。きめ細かな指導を意識することを通じて、全国学力・学習状況調査生徒質問紙では「先生は自分のよいところを認めてくれている…93%（前年度 90.4%、一昨年度 84.2%）」と向上が見られた。
- お互いの教職員が学校を行き来し、授業交流を行うことがある程度定着し、児童生徒の教職員に対する安心感や親近感をつくり出すことができている。小小連携も、自然に行われ、小規模校の児童が様々な児童と交流を深めることができるとともに、受け入れる側の児童も理解が深まる効果が見られる。中学校入学に向けて、多くの人たちと人間関係を構築していく上でよい効果が期待できる。
- 本事業の会議や出前授業などをとおして、推進校の教職員が互いの学校における教育活動の状況やその成果、課題について、改めて理解を深めることができた。また、9年間を見通した教育活動の構築が、学力や生活など様々な場面に有効であり、整備の必要性を共有することができた。
- 学校が地域の行事に積極的に関わっていくことで、保護者のみならず地域住民とのコミュニケーションが増し、学校と保護者や地域との情報の共有が図られた。今年度はさらに生徒が地域行事に積極的に出て行く様子が見られた。

7 今後の課題

- 円滑な小中の接続、学習効果の向上を図るために、外国語活動と外国語、道徳、総合的な学習など一貫したカリキュラム編成をさらに進めていく必要がある。
- 出前授業を一時的な投げ込み授業ではなく、教科によっては1単元を通じて中学校教員が授業を行うなど、ダイナミックな取組を仕掛けていく必要がある。
- 今年度、地域人材を積極的に活用した体験的な活動を行うきっかけができた。さらに推進し、多くの児童生徒が自然に交流できる雰囲気をつくる必要がある。

◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本推進地域からの提言 ◇◇◇

★ 「15の春に責任をもつ」を合い言葉にした目指す子ども像の共有

小・中の円滑な接続、連携を図る中で、地域、保護者と目指す子ども像を共有しながら、学校、地域が一体となって児童生徒を育てていくことができる。

★ 不登校生徒の未然防止、傾向把握と小中教職員の共通理解

日常の授業交流などで小学校・中学校教員が意思疎通を図り、情報を共有することで、中学校入学後に生徒が抱える困難を想定し、対応することができる。不登校の未然防止、学習におけるつまずき、人間関係の構築にも予測しながら対応できる。

★ 児童生徒理解の充実と一貫性のある指導体制の構築

子ども理解支援ツール「ほっと」の活用、教育相談の充実、小中での情報共有をスムーズに行い、一貫性のある指導体制を構築することで、人間関係づくりの能力をさらに高め、学力、体力の向上につなげていくことができる。また、地域、保護者の信頼も高めていくことができる。

共和町立共和中学校区における中1ギャップ解消プラン

中学校名	共和町立共和中学校（生徒数 142 名）
小学校名	共和町立東陽小学校（児童数 107 名） 共和町立北辰小学校（児童数 71 名） 共和町立西陵小学校（児童数 82 名）

本プランの特徴

- 「ほっと」の実施による児童生徒理解の充実に努め、小学校から中学校への引継ぎの資料とするなど小・中学校間の情報の共有を図っています。
- 学習規律の徹底・生活規律の統一に向けた各校での手立てについて、担当者間の意見交換及び交流を行っています。
- 不登校の未然防止・早期発見・早期対応及び中学校入学時の不安感解消に向けて、合同学習や乗り入れ授業を行っているほか、体験入学と合わせてアンケートを実施しています。

1 推進地域の特徴

町内には小学校3校、中学校1校があり、通学区域が広範なため、一部の児童生徒はスクールバスを利用して通学している。

各種事業を通じて幼稚園、小学校、中学校及び高等学校が連携を図っており、教育指導体制や教育内容の充実に努めるとともに、郷土愛をはぐくむため、自然や地場産業などを素材とした学習を推進し、各学校が地域文化の核として愛される学校づくりを進めている。

2 推進地域の課題

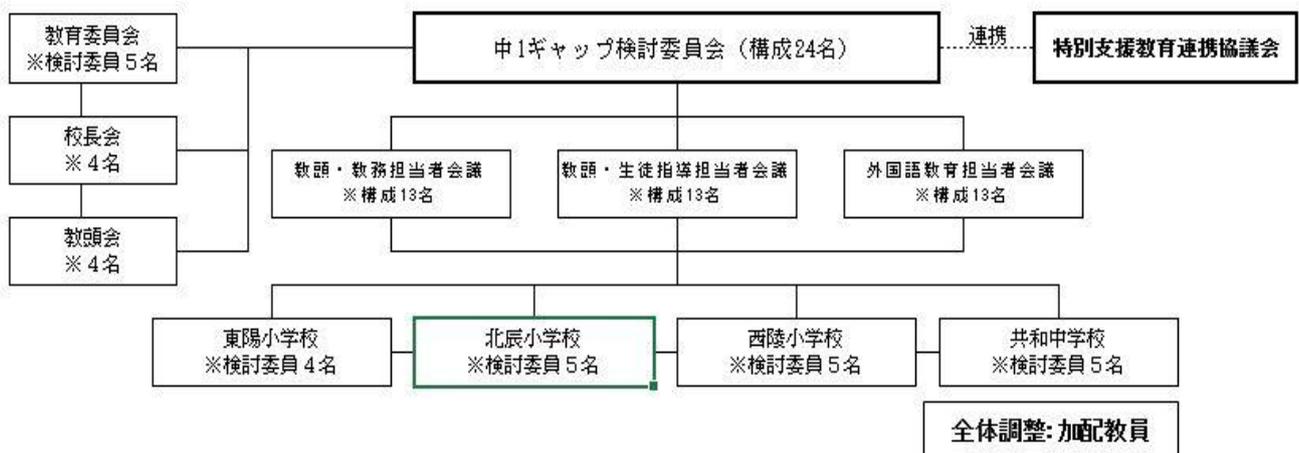
生活面においては、落ち着いた学校生活を過ごす児童生徒が多いものの、自尊感情が低い児童生徒が多い傾向が見られるとともに、この数年は不登校、不登校傾向の生徒が各学年に数名見られるなど、生徒指導上の課題が明らかになり、発達の段階を踏まえ、小学校と連携した取組を行う必要がある。

また、学習面では、全国学力・学習状況調査の結果において、全ての教科の平均正答率が全国平均を下回り、基礎的・基本的な知識・技能が定着していない生徒の割合が高い。

3 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- (1) 小・中学校で一貫した指導の充実に努める。
- (2) 学校生活への不安感などについてきめ細かな把握に努めるとともに、中学校入学後の支援の充実に努める。
- (3) 「小学校間の合同学習」の実施により、将来同じ中学校に入学する児童間の交流を図る。

4 中1ギャップ検討委員会の組織



5 中1ギャップ解消プランの実際

～小中連携の取組

時 期	共和町立共和中学校	共和町立東陽小学校 共和町立北辰小学校 共和町立西陵小学校
～3月	【年度計画の作成】	
	○ 年間活動予定の確認、合同学習実施日についての協議	
～3月	【新入生徒に関する引継ぎ】	
	○ 学習、生活、交友関係、家庭環境等の状況及び配慮事項についての確認 ○ 特別な教育的支援を必要とする児童の実態や効果的な支援策についての情報の共有 ○ 食物アレルギーに関する児童の実態や効果的な支援策についての情報の共有	
4月	○ 生徒指導方針、学校いじめ防止基本方針、緊急時の対応等の確認 ○ 生徒の状況（集団・個別）確認	○ 生徒指導方針、学校いじめ防止基本方針、緊急時の対応等の確認 ○ 児童の状況（集団・個別）確認
5月	【第1回運営協議会】	
	○ 検討委員会委員の推薦、検討委員会の設立 ○ 協議会の目的や所掌事項・年間計画の確認	
	【第1回教頭・教務担当者部会】	
○ 合同学習開催日程等についての確認、乗り入れ授業について協議		
【第1回外国語教育担当者部会】		
○ 外国語教育の取組状況についての情報交換		
6月	○ いじめアンケート①の実施	○ いじめアンケート①の実施
	【第1回検討委員会】	
○ 本事業及び検討委員会専門部会担当業務について確認・協議		
7月		【合同学習】
		○ 小学校第3学年による「らいでん食農教室」（総合的な学習の時間）の実施
	【教職員研修・交流事業】	
	○ 研修事業・・・町内施設の利活用の在り方、交流事業・・・研修後の意見交換	
【第1回生徒指導担当者部会】		
○ 「ほっと」の実施について協議 ○ 児童生徒の状況、生活のきまりについての情報交換		
【「ほっと」の実施及び分析】		
○ 対象学年・・・小学校第5・6学年、中学校第1・2学年		
8月	【「ほっと」活用に係る研修会】	
	○ 生徒指導担当者や「ほっと」実施学年担任などの参加による、「ほっと」の結果について講師からの講評及び今後の活用方法についての意見交換	

様式 1

9月		【合同学習】 ○ 小学校第4・5学年による体育の合同学習の実施
	【第2回運営協議会】 ○ 合同学習の参観及び1学期間の取組の成果と課題・今後の方針の確認	
10月	【教職員研修・交流事業】 ○ 道立教育研究所「市町村教委連携」事業の活用による「特別の教科 道徳」に関する研修会の開催	
11月	○ いじめアンケート②の実施	○ いじめアンケート②の実施 ○ 小学校第1・2学年による体育の合同学習の実施
	【乗り入れ授業】 ○ 中学校教員による小学校への乗り入れ授業の実施	
12月	【第2回生徒指導担当者部会】 ○ 「ほっと」の実施について ○ 児童生徒の状況、生活のきまりについての意見交換	
	【第2回外国語教育担当者部会】 ○ 次年度のALT配置や指導計画案について協議 ○ 各校の取組状況についての意見交換	
	【「ほっと」の実施及び分析】 ○ 対象学年・・・小学校第5・6学年、中学校第1・2学年	
2月	【共和中学校新入生体験学習】 ○ 中学校の1日体験入学・授業体験・部活体験、入学に向けてのアンケート	
	【第2回教頭・教務担当者部会】 ○ 合同学習及び乗り入れ授業について課題整理 ○ 次年度の合同学習及び乗り入れ授業についての調整 ○ 学習規律に関する情報交換	
	【第3回外国語教育担当者部会】 ○ 次年度指導計画案及び教育課程の編成について協議 ○ 各校の取組状況についての意見交換	
	【第2回検討委員会】 ○ 今年度の事業総括・反省、課題整理及び次年度事業計画案について協議・調整	
3月	【新入生徒に関する引継ぎ】 ○ 学習、生活、交友関係、家庭環境等の状況及び配慮事項についての確認 ○ 特別な教育的支援を必要とする児童についての情報の共有 ○ 食物アレルギーに関する確認	

※その他の取組

- 各小学校第6学年の防災無線による朝の声かけ・呼びかけ運動の実施
- 町食育推進委員会と連携した「早寝早起き朝ご飯」運動の実施
- 町特別支援教育連携協議会との連携による本事業の充実・推進

6 事業の成果

- 中学校入学後の不安感の解消のため、これまで小学校第3学年以上で行われていた「合同学習」を第1学年から実施し、中学校入学までの児童間の交流機会の充実に努めた。また、加配教員が中心となり小学校との日程調整や内容の確認を行い、中学校教員による小学校への「乗り入れ授業」を実施した。「乗り入れ授業」の実施により、小学校第6学年の児童の中学校入学への期待感の醸成につながった。

また、中学校教員が次年度入学する児童の様子を確認できたことや、中学校教員による授業の様子を小学校教員が参観することで系統性を踏まえた授業改善を図るなど、小・中学校間の連携強化につながった。

このほか、小・中学校全教員を対象とした研修会を開催し、小・中学校教員による相互の実践の交流が図られた。

【乗り入れ授業に関する児童アンケートより抜粋】

- ・中学校の授業が楽しみになってきた。
- ・難しかったけど楽しい授業だった。
- ・中学校での勉強もしっかり頑張りたい。
- ・専門的で中学校の先生はさすがだなと思った。

- 「ほっと」の実施により、児童生徒の状況を客観的にとらえることができた。
また、分析結果に関する研修会を開催し、講師による今後の活用方法についての的確なアドバイスをいただいたことにより、今後の学級経営など生徒指導の充実につながった。



乗り入れ授業



小中合同の研修会



「ほっと」の活用に係る研修会

7 今後の課題

- 今年度取り組んできた各種事業を単年度の取組とせず、次年度以降も「継続」し、発展させていくことで更に成果を得ることができると考える。そのためにもPDCAサイクルにより課題を整理し、取組の改善に努めていく必要がある。
- 不登校の未然防止として各種取組を行っているが、今現在の不登校生徒の支援の充実に努めていく必要がある。

◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本推進地域からの提言 ◇◇◇

★ 未然防止～子どもの「中学校入学への期待感」を高める工夫

小学校・中学校が共通・一貫した指導による児童の興味・関心、自尊感情の向上に努めていく必要がある。そのため、中学校入学前のアンケートの実施などにより、中学校入学への児童の不安や心配事、中学校入学前に小学校でしてほしいことなどを的確に把握し、入学前後のガイダンスの改善・強化につなげていくことが大切である。

その方法の一つとして「乗り入れ授業」は非常に有効な取組である。中学校入学前の児童の期待感を高めることができる一方、小・中相互の教員の意見交換により事業が実施されるため、充実した小中連携が推進される。

また、「合同学習」は今年度から小学校全学年で実施し、毎年各小学校の児童が交流することとなった。「合同学習」は中学校入学前に児童相互の交流を深め、人間関係の形成にも有効である。

★ 早期発見・早期対応～各種調査や児童生徒を理解するための子ども理解支援ツールの活用

子ども理解支援ツール「ほっと」を活用することで児童生徒一人一人の内面を客観的に捉えることができ、不登校やいじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に有効である。

結果を的確に分析・把握することをおして、学級経営など生徒指導を効果的、組織的に推進することができる。

室蘭市立桜蘭中学校区における中 1 ギャップ解消プラン

中学校名	室蘭市立桜蘭中学校（生徒数 585 名）
小学校名	室蘭市立知利別小学校（児童数 342 名）
	室蘭市立旭ヶ丘小学校（児童数 283 名）
	室蘭市立八丁平小学校（児童数 550 名）

本プランの特徴

- 桜蘭中学校を会場に公開授業と研究協議会を開催し、義務教育 9 年間を見通した地域の子どものための教育の課題と成果の共有化を図っています。
- 中学校区の小・中学校で統一した学習規律として、「授業の心構え『五か条』」を策定し、指導の系統性を大切にした小・中学校の円滑な接続に取り組むとともに、今年度、新たに「校区スタンダード」を策定し、次年度以降の小学校の統合に向けて、小小連携にも力を入れています。
- 児童生徒の学校生活への適応状況について、客観的な調査分析をもとに把握し、適切な支援を行うために、子ども理解支援ツール「ほっと」や「Q-U」を活用し、指導に役立てています。

1 推進地域の特徴

室蘭市は北海道の南西部に位置し、港を中心に「鉄のまち」として発展した重化学工業と観光を基盤とした街である。桜蘭中学校は市街地に位置し、中学校区に 3 つの小学校がある生徒数 600 名前後の大規模な中学校である。教育に対する保護者や地域の関心や期待は高く、学校の教育活動にも協力的である。小中連携を基盤に、まちぐるみ、地域ぐるみで連続性のある 9 年間を見通した教育の創造と実践を目指している。

2 推進地域の課題

3 つの小学校から 1 つの中学校に入学することから、中学校進学時における社会的コミュニケーションスキルの定着や、家庭学習の取組状況等について学校間で差が見られる。また、中学校第 1 学年の生徒数が 200 名と大集団になることに伴い、集団不適応となる生徒が多く見られる。

これらの課題を解決するためには、小・中学校の連携を主軸とし、学校が家庭、地域と共通理解を図った教育活動を充実させる必要がある。

3 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- (1) 桜蘭中学校区連携目標・・・「夢や目標を持ち、たくましく生きる児童生徒の育成」
- (2) 重点項目・・・小・中学校を貫く学習ルールや学習環境づくり
 明るい挨拶、真面目に清掃

4 中 1 ギャップ検討委員会の組織

所 属	役 職	所 属	役 職
室蘭市立桜蘭中学校	教頭	室蘭市立旭ヶ丘小学校	教頭
室蘭市立桜蘭中学校	主幹教諭	室蘭市立旭ヶ丘小学校	教諭（教務主任）
室蘭市立桜蘭中学校	教諭（加配）	室蘭市立八丁平小学校	教頭
室蘭市立知利別小学校	教頭	室蘭市立八丁平小学校	主幹教諭
室蘭市立知利別小学校	教諭（教務主任）	室蘭市立八丁平小学校	教諭（教務主任）

5 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	桜蘭中学校	知利別小学校、旭ヶ丘小学校、八丁平小学校
4 月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新入学生徒に関する交流 <ul style="list-style-type: none"> ・学習、生活、交友関係、特別支援教育に関わる内容 ○ 中学校区小中連携プランの組織設置 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第6学年児童に関する交流（中学校入学後の学級編成等への協力） <ul style="list-style-type: none"> ・学習、生活、交友関係、特別支援教育に関わる内容 ○ 中学校区小中連携プランの組織設置
	<p>「校区スタンダード」策定に向けた準備会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校区、目指す15歳の生徒像「後輩や校区小学生の手本、憧れとなる生徒」 ※ 小中連携担当（加配教員）による企画・運営等 	
	<p>中1ギャップ検討委員会（小中連携推進会議）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年間推進計画の検討 ○ 学力・体力の向上に係る交流 ※ 小中連携担当（加配教員）による企画・運営等 	
5 月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校における新体力テストの指導の協力 ○ 「Q-U」の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新体力テスト補助の受入れ ○ 校内研究会の交流
6 月	<p>母校小学校運動会のボランティアの実施</p> <p>※ 小中連携担当（加配教員）による企画・運営等</p>	
7 月	<p>第1回中1ギャップ運営協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年間活動計画の確認 ○ 不登校・いじめの分析 ※ 小中連携担当（加配教員）による企画・運営等 	
	<p>桜蘭中学校区 小中連携公開授業研究会・交流会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校の全学級の授業公開 ○ 小小連携（英語教育） ○ 13分科会による研究協議の開催 ○ 教職員交流会 ○ 「校区スタンダード」の教員への提示 ※ 小中連携担当（加配教員）による企画・運営等 	
	○ 「Q-U」の分析と学年交流	
	<p>桜蘭中学校区 4校PTA交流会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各学校のPTA活動の交流 ※ 小中連携担当（加配教員）による企画・運営等 	

様式 1

	<p>中1ギャップ検討委員会（小中連携推進会議）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 公開授業研究会・交流会等の成果と反省 ○ 「ほっと」の推進計画 ※ 小中連携担当（加配教員）による企画・運営等 	
	○ 「Q-U」の実施	○ 校内研究会の交流
9月	<p>中学校区「ほっと」実施推進会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 小中連携担当（加配教員）による企画・運営等 	
	○ 「ほっと」の実施、分析	○ 「ほっと」の実施、分析
10月	○ 公開研究授業による交流	
	<p>第2回中1ギャップ運営協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 活動の成果と評価、考察報告 ○ 中学校区「ほっと」の分析結果の交流 ※ 小中連携担当（加配教員）による企画・運営等 	
11月	○ 「Q-U」の実施	○ 公開研究授業の交流
12月	<p>中1ギャップ検討委員会（小中連携推進会議）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「ほっと」の分析結果の活用 ○ 学力・体力の向上に係る交流 ○ 校区スタンダードの策定に向けた検討（重点項目の整理） ※ 小中連携担当（加配教員）による企画・運営等 	
	○ 「Q-U」の分析と学年交流	
1月	<p>新入生説明会及び体験入学 中学校体験授業（1日当たり3時間×2日間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 小中連携担当（加配教員）による企画・運営等 	
	○ 「ほっと」の分析データの活用	○ 「ほっと」の分析データの活用
2月	<p>乗り入れ授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校の教員による小学校での乗り入れ授業の実施（小学校が希望する教科） ※ 小中連携担当（加配教員）による企画・運営等 	
3月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新入生学習サポートの実施 ○ 新入生に関する引継ぎ (綿密な引継ぎと学級編成での協力) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校入学への準備の充実 ○ 新入生（第6学年児童）に関する引継ぎ (綿密な引継ぎと学級編成での協力)
	<p>中1ギャップ検討委員会（小中連携会議）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度の取組の成果と反省 ○ 次年度に向けた計画の検討 ※ 小中連携担当（加配教員）による企画・運営等 	

6 事業の成果

- 中学校区の小・中学校が連携し、義務教育 9 年間を見通した一貫性のある生活習慣や学習習慣の指導は、児童生徒の学力を向上させるとともに、児童生徒や保護者に安心感を与え、中 1 ギャップ解消に向けた大きな力となっている。
- 小・中学校で、学習規律「授業の心構え『五か条』」の策定や授業改善に向けた意見交流を通して、小・中学校の円滑な接続を図ることができている。

○ 「校区スタンダード」を策定したことにより、義務教育 9 年間のそれぞれの成長過程における「目指す児童生徒の姿」を教員間で共有し、実現に向けた教育活動を推進するとともに、「校区スタンダード」に関する項目を学校評価に取り入れ、取組の進捗状況や達成状況の評価と検証を行い、「中 1 ギャップ解消プラン」の改善に努めている。

旭ヶ丘、知利別、八丁平、桜園 校区スタンダード(保護者)			
【目標1(後)】「後輩や校区小学校の手本、憧れとなる生徒」			
学年	小学校1～4年	小学校5年～中学校1年	中学校2年～3年
【目標1(中)】学習習慣を身に付け、自分で課題を見つけ、粘り強く解決する生徒			
学習習慣	家庭学習 ・学年×10分 ・静かな場所で勉強する ・家庭学習を習慣化する	学年×10分 ・静かな場所で勉強する(out media) ・自主学習に取り組む	1日2時間の家庭学習をする
	読書習慣 ・素早く読書をする ・幅広く読書をする ・週に30分以上の読書に取り組む	自分のニーズにあった本を選択し、進んで読書をする ・週に4分以上の読書に取り組む	活字から想像できる本を選び読書を行う
【目標1(前)】協力し合い、主体的に活動する生徒			
授業	授業 ・指定期中学校区授業の心構えか桌の定着	指定期中学校区授業の心構えか桌の徹底	授業の心構えか桌の継続
	学力向上	ペアやグループでむらりに沿って話し合いができる	ペアやグループで教え合い、学び合いができる

【校区スタンダード】

- 「ほっと」や「Q-U」の活用により、児童生徒のコミュニケーションスキルの課題や、不登校になる可能性が高い児童生徒、いじめを受けている可能性が高い児童生徒、学校生活の意欲が低下している児童生徒等を客観的に把握し、早期に対応することができる。

7 今後の課題

- 学校間だけで完結している取組があることから、保護者や地域からの様々な意見を取り上げたり、協働して実施する機会を多く設定したりする必要がある。
- コミュニティ・スクールの導入を進め、学校と保護者、地域の連携をより一層深め、地域の教育の質の向上に取り組む必要がある。
- 学校評価において「校区スタンダード」を検証し、課題解決に向けた改善策を検討するとともに、その改善策を小・中学校で早期に実施できるよう、小・中学校の連携体制を整備する必要がある。

◇◇◇ 中 1 ギャップを解消するための本推進地域からの提言 ◇◇◇

★ 地域の教育の課題と実践の共有化
 小・中学校の連携を密にし、教育活動の充実を図るためには、小・中学校で「中 1 ギャップ検討委員会」や「授業交流研究協議会」等を開催し、地域の教育の課題と成果の共有化を図ることが大切である。

★ 小中連携による 9 年間を見通した教育活動の展開
 中 1 ギャップの未然防止には、教職員の共通理解の下、中学校区で統一した学習規律や生徒指導上の決まりを策定し、指導の系統性を考慮しながら発達の段階に応じた指導を行うことが効果的である。

★ 「ほっと」や「Q-U」を活用した豊かな人間関係づくり
 「ほっと」や「Q-U」のような客観的データの分析により、児童生徒のコミュニケーションスキルや学校生活への適応についての現状や課題を把握し、学習指導や生徒指導において検討した改善策を組織的に実行することが、豊かな人間関係づくりと人間関係のトラブルの未然防止につながる。

新ひだか町立静内中学校区における中1ギャップ解消プラン

中学校名 新ひだか町立静内中学校（生徒数 228 名）

小学校名 新ひだか町立静内小学校（児童数 185 名）

本プランの特徴

- 「ほっと」の実施により、小・中学校が共通の観点による児童生徒理解の充実を図り、不登校生徒の未然防止に努めています。
- 中学校行事への小学生の参観・参加や中学校教師による小学校での乗り入れ授業により、中1ギャップ解消に向けての取組を行っております。
- 中1ギャップ担当者会議を定期的に行い、小・中教職員の共通理解と義務教育9年間を見通した指導体制の確立を図る取組となるよう努めています。

1 推進地域の特徴

新ひだか町は、10年前に町村合併した町であり、水産業・軽種馬産業が盛んな町である。

町内には、小学校6校、中学校3校、公立高校2校があり、地元高校への進学率は8割以上となっているが、2校ともに近年は定員割れの状態が続いている。

静内中学校は、町内4つの小学校から入学してきており、その規模も大規模校から極小規模校まで多様である。

新ひだか町として「学力向上」「道德教育の充実」「ふるさと教育」を柱とした教育計画を立て、将来、地域の担い手となる人材育成に取り組んでいる。

2 推進地域の課題

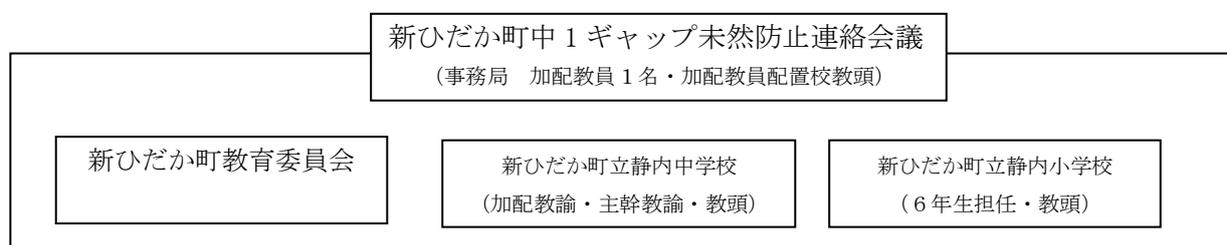
全国学力・学習状況調査の結果から、学力向上（特に基礎学力の定着）が長年の課題となっている。また、スマホやゲームなどのメディアに接する時間が全国・北海道平均と比較して極端に長く、生活習慣の改善も大きな課題となっている。

学校生活においては、落ち着いた学校生活を過ごす児童生徒が多く、深刻ないじめ問題も見られていない。ただし、中学校に入学してから不登校・不登校傾向の生徒が学年を追うごとに増加していくといった課題が長年継続しているため、義務教育9年間を見通した計画的・継続的な取組や指導が必要である。

3 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- (1) 児童生徒のコミュニケーション能力の育成や他者との関わりを通して社会的スキルを身に付け、学級・学年集団に適応する力を育成するとともに、自他の良さを理解し、自分自身の可能性を伸ばすことができる児童生徒を育成する。
- (2) 授業交流や行事参加などを通して、児童生徒同士の交流や教職員の交流を積極的に行うことで、小中学校の円滑な接続による中1ギャップ問題未然防止の取組を充実させる。
- (3) 義務教育9年間を見通した系統立てた指導体制の確立を目指す。

4 中1ギャップ検討委員会の組織



5 中1ギャップ解消プランの実際

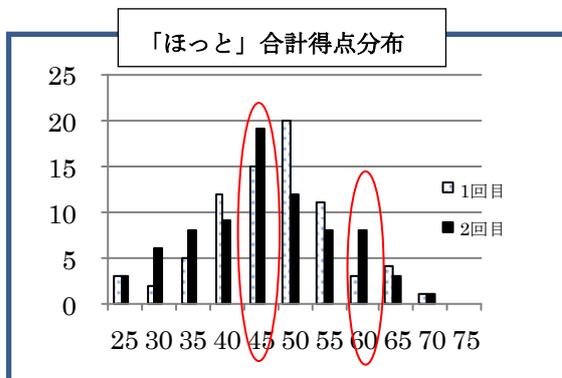
時 期	静内中学校	静内小学校
3 月	○新入学生徒に関する引継ぎ（校区全4校と実施） <ul style="list-style-type: none"> ・学習、生活、特技、交友関係等の状況及び配慮事項についての確認 ・個別の指導計画を活用した特別な配慮を必要とする生徒についての確認 ・特別支援学級の生徒に関わる引継ぎは、支援学級担任間で実施 	
4 月	○新入学生徒を含む全校生徒に関わる配慮事項等の情報共有 ○中1ギャップ問題未然防止委員会の設置	○全校児童に関する配慮事項の情報共有 ○中1ギャップ問題未然防止委員会の設置
5 月	○教育相談（全学級・全校生徒） ○中1ギャップ問題未然防止事業計画の確認（本事業事務局と小学校教頭での文書確認） ○校内「中1ギャップ未然防止」担当会議の実施と本事業について全教職員での共通理解	○校内「中1ギャップ未然防止」担当会議の実施と本事業について全教職員での共通理解
6 月		
7 月	○第1回中1ギャップ未然防止連絡会議の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・本事業の年間計画の確認 ・中学校参観日（全校合唱交流会）に関わる最終調整および確認 	
	◎小学校6年生の中学校「合唱交流会」の参観 <ul style="list-style-type: none"> ・参観（6年生全員）、感想発表（6年生代表）、感想用紙の記入（6年生全員） 	
	○「ほっと」実施と分析（全学年全クラス）	○「ほっと」実施と分析（第6学年）
8 月	○「ほっと」分析結果を基にした各校での実践	
9 月	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的コミュニケーションスキルの育成 	
10 月	○基礎学力定着のための実践と授業改善	

様式 1

<p>11月</p>	<p>○第2回小中連携会議 (参加者：道教委学校教育局参事主査、日高教育局指導主事、町教委指導主事、 静内中学校3名、静内小学校2名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業視察 ・実践状況の報告、交流 ・「ほっと」分析結果および実践の交流 ・合唱交流会参観の成果と課題及び反省 ・不登校児童生徒の実態交流と対策の検討 ・12月以降の事業内容の確認 	
<p>12月</p>	<p>○「ほっと」実施と分析(全学年全クラス) ○自殺予防プログラムの実施(1学年保健 体育で3時間実施)</p>	<p>○「ほっと」実施と分析(第6学年)</p>
<p>1月</p>	<p>○自殺予防プログラムの実施(1学年特別 活動で1時間実施) ○「ほっと」分析結果の全体交流</p>	<p>○「ほっと」分析結果の全体交流</p>
<p>○中学校教諭による乗り入れ授業①の実施 ・英語、数学で各1時間実施</p>		
<p>2月</p>	<p>○新入生体験授業および入学説明会の実施 ・体験授業(英語・数学・美術) ・入学説明(中学校の生活、心得やきまりなどの説明)</p>	
<p>○中学校教諭による乗り入れ授業②の実施 ・英語、数学で各1時間実施</p>		
<p>3月</p>	<p>○第3回小中連携会議の開催 ・「ほっと」分析結果の交流 ・本事業の検証と次年度に向けた取組の検討 ※次年度推進校予定の山手小学校も参加</p>	
<p>○新入学生徒に関する引継ぎ(校区全4校と実施) ・学習、生活、特技、交友関係等の状況及び配慮事項についての確認 ・個別の指導計画を活用した特別な配慮を必要とする生徒についての確認 ・特別支援学級の生徒に関わる引き継ぎは、支援学級担任間で実施</p>		

6 事業の成果

- 本事業を行うことで、小・中学校ともに教職員の課題に対する意識化が図られ、小・中学校間での生活習慣の改善や学力向上への取組の具体化が図られた。
- 連携校で具体的な共通のツール（「ほっと」）を使ったことで、同じ観点での児童生徒分析を行うことができ、小・中ともに不登校や学校（学級）不適應につながる可能性がある観点項目が明確になることで小中連携しての取組の具体化が図られた。
- 本事業初年度の取組が町内各校にも周知され、次年度推進校の拡大を予定している。



7 今後の課題

- 今年度は、小・中 2 校で本事業を行ってきたが、不登校や学校不適應防止にとどまらず、生活習慣改善や学力向上に対してより具体的な取組となるよう、中学校区 4 校全ての小学校と連携した取組にする必要がある。
- 「ほっと」の実施・分析をより効果のあるものとするために、実施時期や回数、重点的な項目などを早期に決定し、各項での実践につなげていくことで未然防止を図っていきたい。特に、コミュニケーション能力の向上が喫緊の課題であることから、ピア・サポートや SST などを取り入れた特別活動や行事の取組なども今後検討していく必要がある。
- 本事業の取組をスクールカウンセラーや町役場福祉課、福祉関連機関との連携（情報の共有や相談など）に生かしていくことで中 1 ギャップ問題の未然防止だけでなく、継続的な課題であった不登校問題の解決につなげていくことが必要である。

◇◇◇ 中 1 ギャップを解消するための本推進地域からの提言 ◇◇◇

★小中連携による 9 年間を見通した指導体制の確立

中 1 ギャップ問題を背景とした不登校や学校不適應を防ぐため、小中教職員の共通理解を図りながら義務教育 9 年間を見通した学習指導（学力向上・学習規律の確立など含む）や生徒指導（学校生活のきまりやコミュニケーション能力育成を含む）を系統的に行える体制づくりが重要である。

★子ども理解支援ツール「ほっと」を活用した詳細な分析と対策の具体化

中 1 ギャップ問題を未然に防ぐためには、小学校から中学校への進学時のギャップを埋めることも必要だが、ギャップを乗り越える力を育成することも同時に行う必要がある。そのために「ほっと」を活用し、児童生徒の現状把握と分析結果を基にした具体的かつ効果的な対策を小・中が情報を共有しながら連携して行うことが大切である。

★保護者・地域との連携体制の確立

学校と保護者・地域との連携も中 1 ギャップを解消するためには重要である。学校からの情報発信はもとより、学校・保護者・地域の協力体制の確立のために町教委が核となった取組を進めることで、町全体で子どもたちを育てていく環境を整えることが重要である。

長万部町立長万部中学校区における中1ギャップ解消プラン

中学校名 長万部町立長万部中学校 (生徒数 93名)

小学校名 長万部町立長万部小学校 (児童数 193名)

長万部町立静狩小学校 (児童数 9名)

本プランの特徴

- 長万部町教育連携会議を通じた小中高12年間を見通した児童生徒の育成を基盤とし、小・中学校の円滑な接続を目指し進めています。
- 子ども理解支援ツール「ほっと」や「中学校生活に関するアンケート」を活用し、学校生活への適応状況を把握し、児童生徒に対する適切な支援に努めるとともに、本事業の取組の改善に役立てています。
- 小・中学校の円滑な接続を目指した「乗り入れ授業」や「小・中学校間や小学校2校での合同の活動・取組」等を行い、児童生徒間の交流及び職員間の連携を充実させ、校種間の円滑な接続に努めています。

1 推進地域の特徴

長万部町には、長万部小学校、静狩小学校、長万部中学校、長万部高等学校があり、長万部町教育連携会議を通じて、連携を深め、12年間で子どもたちを育む体制づくりに努めている。さらに、東京理科大学と連携したALT派遣や学習サポート等の取組を継続して行っている。

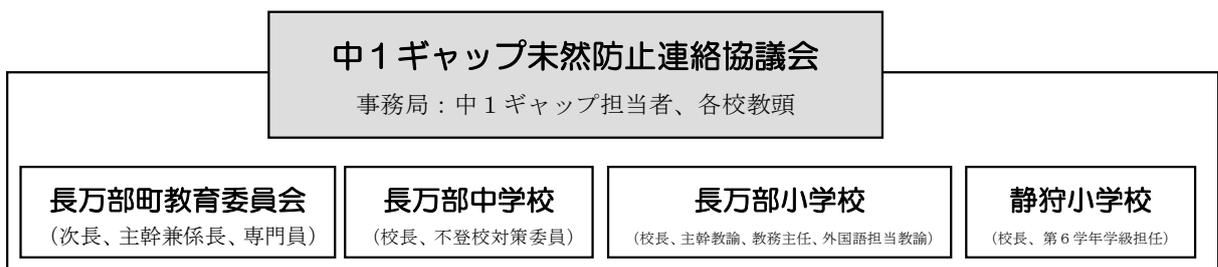
2 推進地域の課題

静狩小学校と長万部小学校では小・小連携を図り、合同の授業や行事を通じて、中学校入学後の学習や生活を想定した取組を計画的に実施している。しかし、集団になじめない、対人関係をうまく築けない、学習に十分適応できない等の様々な原因により、中学校入学後に不登校傾向に陥る生徒も存在する。

3 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- ・児童生徒の人間関係に係る調査や観察を通じて成果や課題を把握し、児童生徒同士の交流や職員の交流・派遣などを充実させ、小中の円滑な接続に努める。
- ・いじめや不登校、別室登校の児童生徒の解消を図る組織的な支援体制を整備し、いじめ、不登校等の未然防止を図る。

4 中1ギャップ検討委員会の組織



5 中1ギャップ解消プランの実際

～小中連携の取組

時 期	長万部中学校	長万部小学校・静狩小学校
3月	○ 新入生に関する小・中学校間の引継ぎ ・学習・生活・家庭環境等に関する引継ぎ	
4月	○ 第1回 長万部町家庭学習強調週間・スマホ等使用制限週間 ・期間：4月9日（月）～4月16日（月）	
	○ 小中高合同研修会「校種間連携の在り方について（講演会）」	
		◇ 合同標準学力検査（小・小連携）
5月	○ 第1回 中1ギャップ未然防止連絡協議会 ・事業内容の確認 ・子ども理解支援ツール「ほっと」の活用について	
	○ 長万部小学校での乗り入れ授業開始 ・長万部中学校の英語担当教諭（加配教員）が、第5・6学年の外国語活動の授業を週1時間実施	
	○ 中1ギャップ問題未然防止事業 第1回運営協議会	
6月	○ 第2回 中1ギャップ未然防止連絡協議会 ・子ども理解支援ツール「ほっと」の実施・集計・分析方法について ・「中学校生活に関するアンケート」の実施について ・夏季休業中の学習サポート、歌声集会、児童生徒会交流について	
	○ 第1回 長万部町不登校情報交換会議	
	○ 「いじめアンケート」、子ども理解支援ツール「ほっと」、「中学生に関するアンケート」の実施	
		◇ 合同修学旅行、合同社会科見学 （小・小連携）
7月	○ 第1回 長万部小学校 児童情報交換会議	
	○ 中学校職員・生徒による夏季休業中の学習サポート ・長万部小学校（2日間）、静狩小学校（2日間）	
8月	○ 第1回 静狩小学校 児童情報交換会議	
	○ 第2回 長万部町不登校情報交換会議	
	○ 第2回 長万部町家庭学習強調週間・スマホ等使用制限週間 ・期間：8月20日（月）～8月27日（月）	
		◇ 合同音楽鑑賞会（小・小連携）

様式 1

9月	<p>○ 第1回 児童会・生徒会交流</p>	<p>◇ 合同持久走記録会（小・小連携）</p>
10月	<p>○ 「いじめの問題について考える会」、「歌声集会」の実施 ・小・中学校、高等学校の児童会・生徒会が作成した「いじめ撲滅宣言」の宣言 ・歌声集会における小・中学校と高等学校の交流</p> <p>○ 第3回 中1ギャップ未然防止連絡協議会</p> <p>○ 中1ギャップ問題未然防止事業 第2回運営協議会</p> <p>○ 第3回 長万部町不登校情報交換会議</p> <p>○ 「いじめアンケート」の実施</p>	
11月	<p>○ 子ども理解支援ツール「ほっと」、「中学生に関するアンケート」の実施</p>	<p>◇ 合同社会科見学（小・小連携）</p>
12月	<p>○ 第4回 長万部町不登校情報交換会議</p> <p>○ 中学校職員・生徒による冬季休業中の学習サポート ・長万部小学校（2日間）、静狩小学校（3日間）</p>	<p>◇ 合同租税教室（小・小連携）</p>
1月	<p>○ 第2回 小学校 児童情報交換会議</p>	
2月	<p>○ 第4回 中1ギャップ未然防止連絡協議会</p> <p>○ 第3回 長万部町家庭学習強調週間・スマホ等使用制限週間 ・期間：2月12日（火）～2月19日（火）</p> <p>○ ジョイントコンサート ・小・中学校及び高等学校の吹奏楽部によるコンサート</p>	<p>◇ 合同社会科見学（小・小連携）</p> <p>○ 第5回 長万部町不登校情報交換会議</p>
3月	<p>○ 新入生一日体験入学 ・オリエンテーション、授業見学、授業体験、合同給食、部活動見学等</p> <p>○ 新入生に関する小・中学校引継ぎ ・児童一人一人の学習・生活・家庭環境等に関する引継ぎ</p>	

6 事業の成果

- 中1ギャップ問題未然防止に向け、校種間連携に関する合同研修会を4月に実施した。その中で、中学校入学後に不登校傾向となる生徒の多くは、小学校段階からその兆候が見られること、小学校段階からストレスを蓄積していることなどについての理解が深まった。その結果、中学校での不登校を防止する取組を小学校に在籍している段階から始めることが必要との認識を小・中学校の全職員で共有することができ、中1ギャップ未然防止の取組の重要性を再確認することができた。
- 子ども理解支援ツール「ほっと」を活用・分析したことで、各学校の集団がもつ課題が把握でき、各学校の実態に応じて、課題の解決に向けた方策を実施することにより、不登校の未然防止に努めることができた。
- 長万部小学校第6学年では、6月に実施した子ども理解支援ツール「ほっと」の結果分析から、学級全体で13要素のうち「参加」「緊張」の偏差値が低かったため、学級では、互いに尊重し認め合える支持的風土のある学級経営を行い、学校行事では、目指す子どもの姿を明確にした上で、全教職員で取組を進めた結果、11月の調査においては次のように改善が見られた。

	【参加】	【緊張】
6月	48.5	49.2
11月	51.6	51.8

- 小学校への乗り入れ授業を通じて、中学校の英語教員と児童の望ましい人間関係が構築され、中学校入学後の英語の授業に結び付いている。また、児童の様子を交流することで、乗り入れを授業を行っている英語教員以外の中学校教員の児童理解が深まったり、小学校職員の外国語・外国語活動の指導に関する意識が高まると同時に、指導方法・技術の向上にもつながったりしている。

7 今後の課題

- 小学校と中学校の円滑な接続に向け、児童と生徒、児童と児童、児童と中学校職員の交流を一層充実させる必要がある。
- 小・中学校において、学習規律や授業の基本的な学習過程、宿題や課題の児童生徒への与え方について教職員の共通理解を図る必要がある。
- 小・中学校 12年間で学習する内容を系統的に捉え、そのつながりを明確にするとともに、学習指導に生かす必要がある。

◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本推進地域からの提言 ◇◇◇

★ 未然防止に向けた児童の状況把握と早期対応

小学校の早い段階で不登校の予兆（適応状況など）を把握して、「積み残し」や「先送り」することなく、早期に対応・支援することが不登校の未然防止に効果的である。

★ 小・小連携も含めた児童生徒の交流の充実

中学校入学時の不安要素の一つが、先輩や他の小学校の児童との関係づくりである。児童会・生徒会活動、クラブ・部活動、体験入学、諸行事などを通じて、児童同士及び児童と生徒が交流を深めることで、小から中への接続をより円滑に進めることができる。

江差町立江差中学校区における中1ギャップ解消プラン

中学校名 江差町立江差中学校（生徒数 112 名）
 小学校名 江差町立江差小学校（児童数 158 名）
 江差町立南が丘小学校（児童数 74 名）

本プランの特徴

- 人間関係づくりの能力の向上を目指して、「児童による部活動体験」、「第 6 学年の 1 日体験入学」、「小学校への夏休み・冬休み学習ボランティア」など交流する機会を多く設けています。
- 学習指導や生活指導の円滑な接続を目指して「互いの学校間での授業参観」、「小学校外国語活動への乗り入れ授業」、「中学校入学説明会」などを実施しています。
- 不登校の未然防止、早期発見・早期対応を目指して「ほっと」、「生活に関するアンケート」、「ネット実態調査」を行い、日常の児童・生徒指導に生かしています。

1 推進地域の特徴

江差町は北海道の南西部に位置している。北海道文化発祥の地といわれており、江差追分などの伝統芸能や生活文化が数多く伝承されている。江差中学校は江差町の南部に位置し、江差小学校と南が丘小学校の 2 校の児童が同じ中学校に入学することになる。月に 1 回、江差町の方々が街頭に立ち挨拶運動を行う。その成果もあり児童生徒は地域から好評を得るほど挨拶がしっかりとできている。

2 推進地域の課題

生活面では落ち着いた学校生活を過ごす生徒が多いが、「ほっと」の結果からコミュニケーションスキルに課題のある生徒が多いことが分かっており、特に「緊張」項目の数値が標準より低くなっている。

近年、不登校、不登校傾向の生徒が各学年に見られている。また、携帯電話・スマートフォンの所持率が高く、利用に伴ったトラブルも少なくない。

学習面では基礎基本の定着が不十分であり、全国学力・学習状況調査の点数が全国平均より低い。また、家庭学習の時間が短いなど家庭での過ごし方にも課題が見られる。

3 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- 小中及び小小の相互理解の促進や確実な情報共有を図り、小中間の円滑な接続を目指す。
- 小学校第 6 学年の中学校登校と両小学校の合同授業を通して、中学校入学に向けての緊張・不安感の軽減と期待感の醸成を図る。
- 家庭や関係機関との連携を強化し、地域総ぐるみで子どもを育てる意識の高揚を図る。

4 中1ギャップ検討委員会の組織



5 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	江差中学校	江差小学校・南が丘小学校
4月	○新入学生徒に関する小・中学校の引継ぎ ・学習面、生活面、交友関係、特別支援などの情報について	
5月	○第1回 江差町小中一貫教育連携協議会 ・小中連携の取組について ・「中1ギャップ問題未然防止事業」について	
	○「ほっと」の実施と分析	○「ほっと」の実施と分析
6月	○小学校外国語活動への中学校教員の乗り入れ授業開始 ・江差中学校の英語教諭が江差小学校及び南が丘小学校にそれぞれ週2時間（第5、6学年に各1時間ずつ）外国語活動の授業にTTとして参加	
7月	○第1回 江差中学校区小中トライアングルサポート連携協議会 ・児童生徒の変容を把握するための授業参観（小学校教員が中学校の参観・交流） ・「校長部会」、「教頭部会」、「学習指導部会」、「生徒指導部会」、「特別支援部会」に分かれて小中連携に向けて協議（部会長の決定、平成30年度の取組、年間計画）など	
	○小学校への夏休み学習ボランティアの実施 ・江差中学校の生徒会執行部の取組	
	○小学校外国語活動への中学校教員の乗り入れ授業	
8月	○小学校外国語活動への中学校教員の乗り入れ授業	
9月	○第2回 江差町小中一貫教育連携協議会 ・小中連携の取組状況について ・「中1ギャップ問題未然防止事業」取組状況について	
	○小学校外国語活動への中学校教員の乗り入れ授業	
10月	○小学校外国語活動への中学校教員の乗り入れ授業	

様式 1

11 月	○「ほっと」の実施と分析	○「ほっと」の実施と分析
	○江差中学校区児童による部活動体験 <ul style="list-style-type: none"> ・第6学年を対象に実施 ・2日間にわたり希望する部活動を体験 	
	○小学校外国語活動への中学校教員の乗り入れ授業	
12 月	○トライアングルサポート合同学習 <ul style="list-style-type: none"> ・第6学年を対象とした中学校への体験入学 ・1～4時間目は中学校の教員による授業を体験 ・5時間目は小中連携の取組として、児童同士で中学校への不安や疑問について協議 	
	○小学校外国語活動への中学校教員の乗り入れ授業	
1 月	○小学校への冬休みの学習ボランティアの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・江差中学校の生徒会執行部の取組 	
	○小学校外国語活動への中学校教員の乗り入れ授業	
2 月	○江差中学校新入生説明会 <ul style="list-style-type: none"> ・第6学年を対象に実施 ・オリエンテーション→体験学習（選択）→小中学生による意見交流 ・12月に小学生から出された質問を中学生が回答 	
	○小学校外国語活動への中学校教員の乗り入れ授業	
3 月	○新入学生徒に関する小・中学校の引継ぎ <ul style="list-style-type: none"> ・学習面、生活面、交友関係、特別支援などの情報について 	

6 事業の成果

- 「児童による部活動体験」、「第6学年の1日体験入学」、「小学校への夏休み・冬休みの学習ボランティア」など小中間、小中間での交流を増やすことで他校の児童や中学生への不安感は緩和され、好ましい印象を与えるきっかけとなった。
- 「学校間での授業参観」、「小学校外国語活動への乗り入れ授業」など実際に児童生徒や学校の様子を直接見ることで、目指すべき児童生徒の姿を共通認識することができた。また児童は中学校生活に見通しをもつ機会が増えた事で不安感を和らげることができた。
- 「ほっと」を利用することで児童生徒一人ひとり、または学級全体でのコミュニケーションスキルの状況を客観的なデータで把握し、現状や課題を交流することができた。また課題となった項目について学級で取組を行った事で特に「緊張（緊張や不安によって話せなくなる）」項目の数値が小学校で大きく向上した。
- 生活に関するアンケートで、いじめと思われる事項について早期対応ができた。
- 「ネット実態調査」を行うことで現状を把握し、共通ルールについて各家庭に確認できた。

「ほっと」による「緊張」項目の数値の推移			
小学校平均		中学校1年	
5月	11月	5月	11月
49.5	54.3	47.7	47.8

7 今後の課題

- 中1ギャップ問題解消の評価方法と、具体的な数値目標の設定について検討が必要である。
- 児童の中学校への不安は緩和されているものの、全ては解消されていないことがその後の調査で判明しているため、中学校入学までの継続的な取組を検討する必要がある。
- 人間関係づくりの能力のさらなる向上を目指すために、交流の前に望ましい言葉遣いや触れ合い方等、事前指導の方法について検討する必要がある。
- 交流の機会を増やし活発な活動を行えるようバランスをとりながら、日程を調整するなどして実施を進める必要がある。
- コミュニケーションスキルの向上を目指して、個人対応にとどまらず、学級や学校単位でソーシャルスキルトレーニングに取り組む必要がある。

◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本推進地域からの提言 ◇◇◇

★ 未然防止～児童生徒・教職員の交流の機会を増やす～

小学生同士や中学生との交流の機会を増やすことは人間関係における不安を和らげるのに有効な手段の1つであるといえる。交流の前に言葉遣いなどについて指導しておくことで、更なる成果が望まれると考えられる。

また家庭での適切な生活習慣と学習習慣の確立の観点から、児童生徒のネットワークの利用の状況を把握し対策をたてることや、ネットでのトラブルを避ける観点から情報モラル指導を推進することが重要である。

★ 早期発見・早期対応～「ほっと」や「生活に関するアンケート」を活用する～

日ごろの観察に加えて「ほっと」などの子ども理解支援ツールを使うことで児童生徒一人一人の内面をより深く理解することができる。不登校やいじめの未然防止、早期発見・早期対応に効果的である。

東川町立東川中学校区における中1ギャップ解消プラン

中学校名 東川町立東川中学校 (生徒数 241名)
 小学校名 東川町立東川小学校 (児童数 340名)
 東川町立東川第一小学校 (児童数 31名)
 東川町立東川第二小学校 (児童数 41名)
 東川町立東川第三小学校 (児童数 18名)

本プランの特徴

- 客観的な子ども理解による不登校の未然防止や早期発見、早期対応のために、子ども理解支援ツール「ほっと」を活用しています。
- 既存の東川町学力向上推進協議会の関連事業と連動して、小・中学校の連携を図っています。
- 小・中学校の円滑な接続による中学校生活への不安の解消を図るために、中学校教員による外国語活動への乗り入れ授業や小・中学校間の綿密な引継ぎ等を行っています。

1 推進地域の特徴

東川町は、町の移住促進の施策により小学校区ごとに住宅団地が造成されており、豊かな自然や教育環境を求めて道内外からの移住者が多く、道内において人口増となっている数少ない市町村の一つである。本校区は、町内全域であり、子どもたちの多くは、幼稚園で一定期間、教育・保育を受けた後、小学校就学時は、各地区の小学校に入学するが、中学校進学時には、幼児期の仲間と再び出会い中学校生活を送ることになる。

2 推進地域の課題

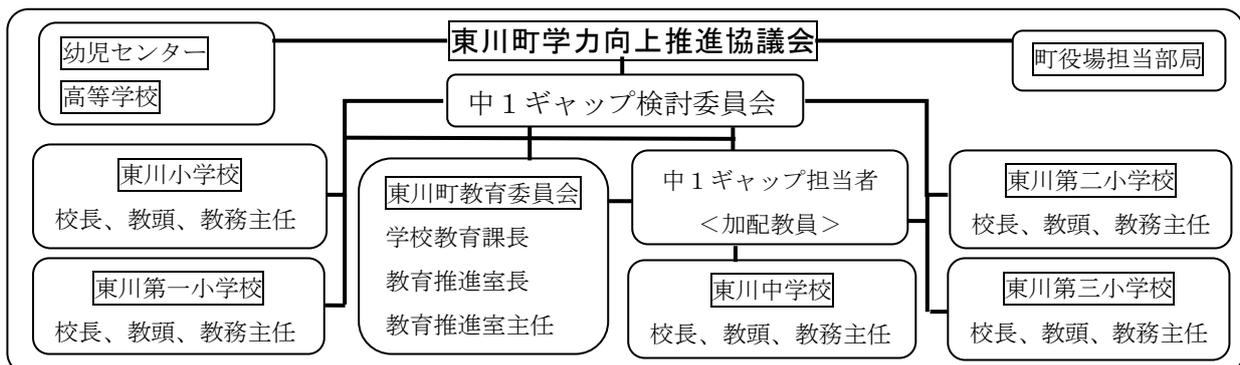
本町の児童生徒は落ち着いた学校生活を送っており、学習や学校行事等にも積極的に取り組んでいる。しかし、コミュニケーション能力の未発達に起因すると思われる集団不適応の事例が見られ、入学前には、新入生の保護者から中学校生活への適応に関して相談が寄せられる。

このことから、児童生徒の人間関係づくりの能力の育成や小・中学校間の連携の強化、家庭や関係機関との情報共有の促進を図り、よりよい人間関係を築く力を育む指導を工夫する必要がある。

3 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- (1) コミュニケーション能力の育成に向けて、社会的スキルを身に付け、学級・学年集団に適応することができる児童生徒の育成を図る。
- (2) 他者との円滑なコミュニケーションに基づいて自己有用感を高め、他者への共感的理解を深めることを通して人間関係づくりの能力の育成を図る。
- (3) 東川町学力向上推進協議会を充実・発展させることにより、小・中学校のつながりの中で、よりよい人間関係を築く力の育成を図る。

4 中1ギャップ検討委員会の組織



5 中1ギャップ解消プランの実際

■ ~小中連携の取組 ○ ~学校の取組 ■ ~児童会・生徒会の取組

時 期	東川中学校	各小学校
3月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新入学生徒に係る状況把握 ・ 学習状況、生活状況、交友関係等の把握 ・ 入学後の配慮事項の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校への引継ぎ ○ 特別な教育的支援を必要とする児童に関する情報提供と個別の支援計画「すくらむ」による引継ぎ
4月	<p>【小・中学校共通の学習規律の確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「東川っ子学びの10か条」に基づき、全ての小・中学校で指導 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新入生に係る配慮事項の共有 ・ 生徒指導事例研修会の実施 ■ 日常的な「あいさつ運動」の取組 <通年> 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日常的な「あいさつ運動」の取組 <通年> (全小学校) ■ 「悩み相談箱」の設置 <通年> (東川小) ■ 「がんばり集め」「やさしさ集め」の取組 <通年> (第一小) ■ 「ふわふわ集会」の実施 (第二小) ■ 「ありがとうの木」の取組 <通年> (第三小)
5月	<p>【第1回東川町学力向上推進協議会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各小・中学校での望ましい人間関係を築く取組状況の確認 ○ 小・中学校の連携に係る取組の検討 ○ 事業内容の協議及び組織の確認 ○ 事業推進年間計画の作成 	
	<p>【第1回中1ギャップ問題未然防止事業運営協議会】5月11日(金)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 継続校からの実践発表 ○ 指定校間の交流・協議 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体育大会への取組を通じた他者理解、協力性及び学級への帰属意識の醸成 ○ いじめアンケートの実施 ○ 教育相談の実施 ・ 教育相談アンケート及びいじめアンケートの結果に基づく教育相談の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運動会への取組を通じた役割の自覚、責任感及び協力性の醸成 ○ いじめアンケートの実施 ○ 教育相談の実施 ・ いじめアンケートの結果に基づく教育相談の実施
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 講演会実施「面白く生きよう」 ○ 生徒指導事例研修 ・ 特別な教育的支援を必要とする生徒の状況の共有と適切な支援の在り方についての研修 	

様式 1

7月 8月	○ 子ども理解支援ツール「ほっと」の実施と結果分析、校内での課題の共有	○ 子ども理解支援ツール「ほっと」の実施と結果分析、校内での課題の共有
9月	○ 学校祭への取組を通じた他者理解、協力性及び学級への帰属意識の醸成	
10月	○ 道徳的実践力向上のための授業交流	○ 学芸会・学習発表会の取組を通じた役割の自覚、責任感及び協力性の醸成 ■ 「東小カーニバル」の取組(東川小)
11月	○ 「幼児・児童・生徒音楽の集い」の実施 ○ 生徒指導事例研修 ・特別な教育的支援を必要とする生徒の状況の共有と適切な支援についての研修 ○ いじめアンケートの実施 ○ 教育相談の実施 ・教育相談アンケート及びいじめアンケートの結果に基づく教育相談の実施	○ 「幼児・児童・生徒音楽の集い」の実施 ・中学校第2学年の学年合唱の鑑賞を通じた中学校における活動への意欲の醸成 ○ いじめアンケートの実施 ○ 教育相談の実施 ・いじめアンケートの結果に基づく教育相談の実施
12月	○ 茶話会の開催 小学校第6学年の保護者との質問や要望などの協議 ■ 「いじめ防止集会」の実施	○ 中学校外国語担当教諭による第6学年外国語活動への乗り入れ授業の実施(東川小・第二小・第三小) ■ 全校集会「クリスマスコンサート」の実施(第一小)
	<p>【第2回中1ギャップ問題未然防止事業運営協議会】12月11日(火)</p> <p>○ 中学校第1学年国語科及び小学校第6学年外国語活動の授業参観 ○ 不登校児童生徒の状況を中心とした各校の児童生徒の実態交流 ○ 事業進捗状況の確認及び効果の検証 ○ 今後の事業予定の確認と成果の普及に関する協議</p>	
1月	<p>【第2回東川町学力向上推進協議会】</p> <p>○ 各学校での望ましい人間関係を築く取組状況の共有 ○ 小・中学校の連携に係る次年度の取組の検討</p>	
	<p>【東川町中学校区の中1ギャップ問題未然防止学習会】</p> <p>○ 子ども理解支援ツール「ほっと」を活用した引継ぎについての確認 ○ 児童生徒の実態交流及び対応の在り方に関する協議</p>	
2月	○ 東川中学校新入生説明会の開催 ・入学予定者とその保護者を対象とした授業見学、中学校生活についての説明及び部活動見学	○ 中学校外国語担当教員による第6学年外国語活動への乗り入れ授業の実施(第一小)

3月	【東川町中学校区の中1ギャップ問題未然防止事業の総括】 ○ 各学校における取組の反省 ○ 児童生徒の実態交流及び対応の在り方に関する協議	
	【小・中学校共通の学習規律の取組の総括】 ○ 「東川っ子学びの10か条」に基づいた、各小・中学校における指導の成果と課題の確認及び今後の取組の方向性に関する協議	
	○ 新入学生徒に係る状況把握 ・学習状況、生活状況、交友関係等の把握 ・入学後の配慮事項の把握	○ 中学校への引継ぎ ○ 特別な教育的支援を必要とする児童に関する情報提供と個別の支援計画「すくらむ」による引継ぎ

6 事業の成果

- 各小・中学校においては、児童会や生徒会が主体となり、人間関係づくりのためのコミュニケーション能力の育成を図る取組を充実させたことにより、児童生徒同士の良好な人間関係を構築することができた。
- 各小・中学校で子ども理解支援ツール「ほっと」を実施して結果を分析したことにより、自校での教育相談や教育活動において、児童生徒に寄り添った指導の充実を図ることができた。
- 「ほっと」の結果から、7月に「拒否」の項目において課題が見られたことから、早期の教育相談の実施や自己有用感を高めるための教育活動の工夫、互いに認め合う場の設定などを進めた結果、12月には全ての項目で平均を上回ることができた。
- 本事業に関わる諸会議や外国語活動への乗り入れ授業等を通して、小学校教員と中学校教員が互いの学校における教育活動の状況について、相互理解を深めることができた。

1 3要素偏差値（校種 規模別）		
実施月	7月	12月
1 3要素	小学校 平均	小学校 平均
礼儀	59.3	60.0
表明	59.8	58.0
参加	53.2	55.2
配慮	54.2	54.2
拒否	47.8	52.0
緊張	54.4	54.4
称賛	54.1	54.7
遵守	54.7	56.5
忠告	58.6	60.6
自律	56.2	56.2
率先	59.7	59.7
学業	55.4	56.5
相談	52.6	51.1

【「ほっと」の分析結果】

7 今後の課題

- 児童が中学校進学後も安心して学習に取り組むことができるよう、義務教育9年間で身に付けさせたい資質・能力を明確にした上で、学習規律など継続した指導を充実させる必要がある。

◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本推進地域からの提言 ◇◇◇

★ 子ども支援ツール「ほっと」を活用した分析と教員の日常的な観察の充実
 「中1ギャップや不登校の未然防止」には、子ども理解支援ツール「ほっと」を活用した分析を基に、自己有用感を高めるための教育活動を工夫するとともに、教員による授業参観の機会を増やすなど日常的な観察を充実させ、生徒理解に向けて共通理解を図ることが大切である。

★ 不登校の防止に向けた、小・中学校の継続的な情報交換
 「不登校の未然防止、早期発見・早期対応」には、中学校入学前から各小・中学校間で情報交換の場を設定するとともに、入学後も継続して、複数の教員が生徒一人一人の状況に応じてきめ細かく対応することが大切である。

天塩町立天塩中学校区における中 1 ギャップ解消プラン

中学校名 天塩町立天塩中学校（生徒数 72 名）
 小学校名 天塩町立天塩小学校（児童数 128 名）
 天塩町立啓徳小学校（児童数 14 名）

本プランの特徴

- 「そろえる」をテーマとした「学習規律」「生活規律」の統一及び系統的な指導について3校で足並みをそろえることで、中学校入学時の不適応を防止する取組を行っています。
- 小・中学校の円滑な接続及び入学前後の学習意欲の向上を目指し、「乗り入れ授業」や「部活動体験」を、年間を通して計画的に行っています。
- 小・中学校間における児童生徒の実態や指導内容等の共有に向け、スクールカウンセラーや町福祉課等の関係機関と連携したサポート会議、連携協議会、合同研修会を行っています。

1 推進地域の特徴

天塩町は留萌管内の最北に位置し、市街地区とその他の酪農を中心とした農業地区からなり、東西南北それぞれに 25 k m 程度の広大な面積をもつ地域である。中学校区には 2 つの小学校があり、市街地から離れた地域の生徒はバスで登校をしており、遠方の生徒の登校時間は片道 50 分を要する。

地域住民や保護者の教育的な関心は高く、学校教育に対して協力的である。また、各種少年団活動や子供会活動等の児童生徒の健全育成活動も活発である。

2 推進地域の課題

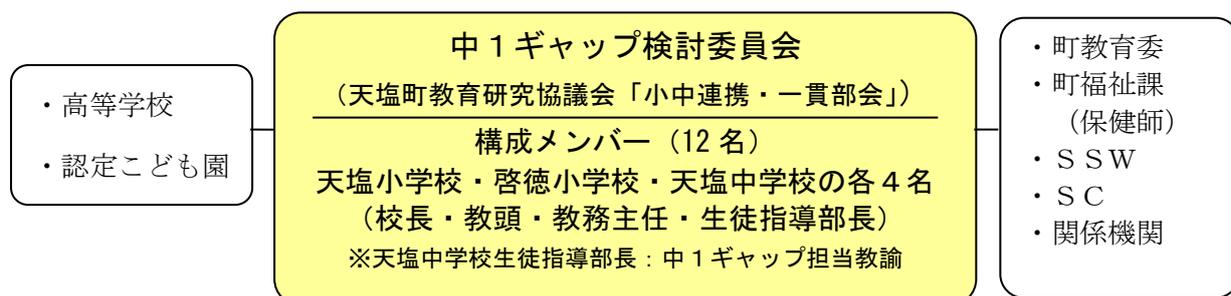
平成 30 年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査や、全校生徒を対象とした学校評価生徒アンケートによると、家庭学習の時間が全体的に短く、学習内容を計画し自主的に進めていくことができない生徒が多い現状が見られた。

平成 30 年 12 月現在、不登校、別室登校の生徒が第 1 学年で 2 名、第 3 学年 2 名在籍している。また他にも、体調不良を理由に休みがち傾向が見られる生徒が第 1 学年で 1 名、第 2 学年で 1 名、第 3 学年で 1 名在籍している。不登校生徒及びその傾向にある生徒は、小学校では通常どおり登校していた生徒も多いことから、いずれも新しい学習環境に適應できていないことが原因の一つとして考えられる。

3 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- 小学校 2 校と中学校間での学習規律・生活規律の改善に関する一貫した取組を推進し、中学校入学時の不適応を防止する。
- 小・中学校相互の授業参観や乗り入れ授業等、小・中学校が連携した取組を推進し、指導方法・指導体制を充実して児童生徒の学習意欲を高める。
- スクールカウンセラーや町福祉課等の関係機関と連携したサポート会議、連携協議会等を開催し、課題を抱える児童生徒に対してきめ細かに対応し、不登校生徒の解消を目指す。

4 中 1 ギャップ検討委員会の組織



5 中1ギャップ解消プランの実際の構成

時 期	天塩町立天塩中学校（推進校 1）	天塩町立天塩小学校（推進校 2） 天塩町立啓徳小学校（推進校 3）
4 月	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新入学生徒に関する引継ぎの実施（新年度体制のもとで） <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習、生活、交友関係、家庭環境等の状況及び配慮事項についての再確認 ・ 個別の支援計画（進学支援シート）に基づき、特別な教育的支援を必要とする児童についての再確認 ・ 食物アレルギーに関して特別な配慮を要する児童の確認（学校生活管理指導表の引継ぎ） ○ 中学校区小中連携組織の設置「名称：中1ギャップ検討委員会」（天塩町教育研究協議会「小中（高）連携・一貫部会」を活用） <ul style="list-style-type: none"> ・ 年間推進計画の作成及び組織体制の確認 ・ 各校における学力・体力の向上の取組に関する交流 ・ 学習指導や生活指導の小・中学校の円滑な接続に関する取組の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【学習指導や生活指導の小・中学校の円滑な接続に関する取組】</p> <p>※「小中連携・一貫部会」教育課程グループと児童生徒育成グループでの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習規律・生活規律の改善に関する一貫した指導について ○ 家庭学習における内容や方法について ○ 学年相互の関連を明確にした小・中学校9年間を見通した指導について </div> </div>	
5 月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国学力・学習状況調査の実施と自校採点及び分析 ○ 生徒指導方針、学校いじめ防止基本方針、緊急時の対応等を全教職員で確認 ○ 生徒の状況（集団・個別）を全教職員で確認 ○ 加配教員及び学習支援員の活用した各教科におけるT・T及び数学科における習熟度別少人数指導の実施（通年） ○ 「不登校対策委員会」の開催（毎月） ○ 放課後学習会の実施（随時） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国学力・学習状況調査の実施と自校採点及び分析 ○ 児童指導方針、学校いじめ防止基本方針、緊急時の対応等を全教職員で確認 ○ 児童の状況（集団・個別）を全教職員で確認
6 月	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中1ギャップ問題未然防止事業第1回運営協議会への参加 ○ いじめアンケートの実施① </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○ いじめアンケートの実施① ○ 小・中学校相互の授業参観及び乗り入れ授業プランの作成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 天塩町教育研究協議会各教科部会において計画案を作成し、2月まで乗り入れ授業を実施 </div>	

様式 1

7月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1学期末学校評価の実施及び分析 ○ 「学校生活に関するアンケート」の実施と分析① ○ 「サポート会議」の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1学期末学校評価の実施及び分析 ○ 「児童アンケート」の実施と分析①
8月 9月 10月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中1ギャップ検討委員会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・各学校の児童・生徒の様子を交流（「ほっと」の分析結果の交流と課題把握） ・全国学力・学習状況調査の結果の交流と課題把握 ・取組の改善と方策の決定 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中1ギャップ問題未然防止に係る第2回推進会議の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・事業の成果と課題に関する協議、中学校の授業公開・参観及び研究協議の実施 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめアンケートの実施② ○ 「学校生活に関するアンケート」の実施と分析② ○ 「第2回 天中いじめ根絶サミット」の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめアンケートの実施② ○ 「児童アンケート」の実施と分析②
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2学期末学校評価の実施と分析 ○ 「学校生活に関するアンケート」の分析② ○ 「サポート会議」の開催 ○ 道徳アンケートの実施・分析② 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2学期末学校評価の実施と分析 ○ 「児童アンケート」の分析②
1月 2月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国学力・学習状況調査結果の分析を踏まえた授業改善の方策の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・天塩町教育研究協議会国語部会、算数・数学部会及び児童生徒育成グループによる分析及び改善策の検討 ○ 中1ギャップ解消を目指した新入生説明会及び体験入学の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の体験授業の実施（2教科） ・中学校の部活動体験の実施（野球部・女子排球部・卓球部・吹奏楽部） ○ 小・中学校合同研修会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・小中連携・一貫部会の取組の発表（成果と課題） ※天塩町教育研究協議会研究発表会 ○ 「小中合同サポート会議」の開催（新年度新入学生を対象） 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小・中・高等学校の円滑な接続や人間関係づくりの能力の育成をねらいとした「天塩町子ども会議」の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒による各学校における成果の交流及び今後の取組に関する協議 	
3月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中1ギャップ検討委員会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の成果と反省及び次年度の計画の立案 ○ 新入学生徒に関する引継ぎ <ul style="list-style-type: none"> ・学習、生活、交友関係、家庭環境等の状況及び配慮事項についての確認 ・個別の支援計画（進学支援シート）に基づき、特別な教育的支援を必要とする児童についての情報共有 	

6 事業の成果

- 「そろえる」をテーマとした「学習規律」「生活規律」の統一及び系統的な指導によって町内3校の取組を統一するとともに、中学校入学時の不適応を防止する取組を継続して行った結果、学校評価の生徒アンケート（4段階評価）において「毎日の学校生活が楽しい」の項目の平均値が、7月の3.2ポイントから12月の3.4ポイントへと上昇した。
- 各小・中学校で「子ども理解支援ツール『ほっと』」を実施し、分析結果を3校で交流した。小学校で実施した昨年度の結果と今年度の第1学年の結果を比較すると、「仲間づくり」や「思いやり」の項目等が向上しており、「自分」という視点からより広い視野に立って考えるようになるなど、学級指導等の成果が確認できた。なお、「ほっと」の実施に係る計画立案、集約、結果分析については、加配教員が推進役として役割を果たした。
- 中学校教員による小学校第6学年への「乗り入れ授業」や小学校児童を対象とした「部活動体験」を実施することにより、小学生の中学校における学校生活に対する関心を高めるとともに、早い時期に中学校進学へ希望や目標をもたせることができた。
- 加配教員が推進役となり、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、町福祉課等の関係機関と連携したサポート会議等を定期的実施したことにより、各学校が抱える不登校等の課題や取組の状況を交流するとともに、不登校生徒やその保護者に対する効果的な支援について協議することができた。

7 今後の課題

- 町内の小学校第6学年が中学校に登校して授業を受ける「中学校登校」を実施するなど、中1ギャップ解消の効果が期待できる取組を更に充実させる必要がある。
- 小学校における人間関係や児童の実態把握、小学校同士の連携の取組について、中学校の加配教員が十分に関わるなど、小中連携を更に充実させる必要がある。
- 昨年度と比較すると、不登校生徒及びその傾向にある生徒数は減少の傾向にあるが、第1学年においては新たに1名増加しているため、この要因を分析して早期対応と今後の未然防止に努める必要がある。

◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本推進地域からの提言 ◇◇◇

★ 小・中学校の円滑な接続を図るための取組の充実

小・中学校の円滑な接続を図るためには、発達の段階を踏まえ、各学年で獲得させる力や目指す児童生徒像を明確にもち、9年間の教育に行う必要がある。更にその9年間の教育の流れや目標を、児童生徒や保護者はもとより、地域住民へ明確に示し、家庭や地域を含めて児童生徒一人一人の成長を見取る体制づくりが大切である。

また、中学校進学後の学校生活の変化による生徒の不安を最小限に留めるために、学校生活におけるきまり等について、小・中学校で統一化を図るなどの工夫が必要である。本推進地域では昨年度より、学習規律や生活規律について発達の段階に合わせて統一した指導を行っている。取組の結果について小・中学校の教員が合同で検証するなど、PDCAサイクルにより改善を図り、実態に即したより実行性のある取組となるように工夫している。

★ 児童生徒理解に基づく組織的な取組の充実と関係機関等との連携

児童生徒の変化を早期に見極め、生徒指導上の諸問題等に適切に対応するためには、教員が児童生徒とコミュニケーションを図りながら様子を見取ることや、各種アンケートや「子ども理解支援ツール『ほっと』」などのデータ、教育相談を活用しながら客観的に児童生徒一人一人の内面を捉えていくことが大切である。本推進地域では、この2つの視点で指導体制を構築し、組織的な取組を行っている。また、家庭環境等で様々な課題を抱えている児童生徒も見られることから、スクールカウンセラー等の関係機関との連携したサポート体制を強化することが大切である。

斜里町立斜里中学校区における中1ギャップ解消プラン

中学校名 斜里町立斜里中学校（生徒数 255 名）
小学校名 斜里町立斜里小学校（児童数 349 名）
斜里町立朝日小学校（児童数 178 名）

本プランの特徴

- 中学校から小学校への出前授業（教員・数名の生徒を派遣）を実施し、中学校の学習や先輩との関わりについての不安を軽減させています。
- 中学校第1学年への「各種アンケート」をとおして、学習や友達関係に不安を感じる生徒を早期に発見し、「学習サポート」や「教育相談」等で支援しています。
- 適応指導教室（ひまわり学級）の運営にも携わり、支援員やSSWと連携して、通常学級で学習ができるよう支援しています。
- 小学校第6学年への「中学校入学アンケート」をとおして、中学校進学に関わる不安を具体化し、その解決に向けて様々な計画を進行させています。

1 推進地域の特徴

斜里中学校区は、中学校1校、小学校2校からなり、小学校卒業後は全員が斜里中学校で生活する体制となっている。小学校2校では、地域差や児童数の違いから学校や学級の様子が大きく異なり、入学後に友人関係を築くことができないなど、中1ギャップ問題を抱える生徒が多い地域である。

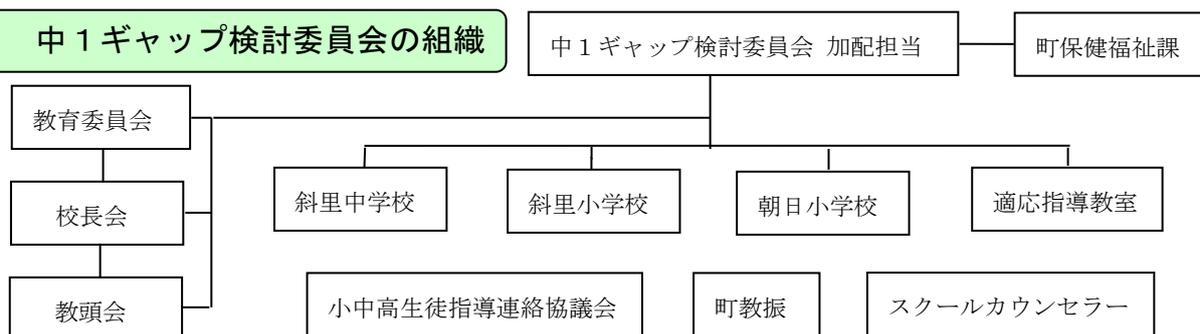
2 推進地域の課題

斜里中学校では、一人親家庭の他、就学援助受給家庭が平成29年度及び平成30年度が約15%となっており、経済的に恵まれない家庭が多い。現在スクールカウンセラーを配置し、教職員の連携だけではなく、生徒及び保護者へのカウンセリングや助言を行っている。また、特別支援学級に在籍する生徒に加え、普通学級にも特別な支援を必要とする生徒が多く在籍しており、学習や生活に適応できず、不登校になる生徒が多い。

3 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- ・各校の情報交流、指導内容の研究を行い、「学習規律」「生活規律」の系統的な指導の確立を目指す。
- ・外国語活動の授業だけではなく、様々な活動（行事・総合的な学習の時間・部活動・少年団活動）をとおして交流を深めることにより、悩みを抱える児童生徒の不安解消や課題の改善を目指す。
- ・アンケートの実施や分析シートを活用することにより、児童生徒の理解に努め、関係機関との効果的な連携を目指す。

4 中1ギャップ検討委員会の組織



5 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	斜里中学校	連携学校（斜里小学校・朝日小学校）
4月	○新入学生徒に関わる交流 ・学習、生活、交友関係、保護者、支援、特別支援に関わる内容 ・新入生歓迎会の実施 ・生徒指導集会における生活規律の指導 ・自殺予防教育プログラムA-①	○卒業児童に関する交流（児童生徒の学級編成への協力） ・学習、生活、交友関係、保護者、支援、特別支援に関わる内容
	【斜里中学校 中1ギャップ検討委員会 3役会】	
5月	【斜里中学校区学校間連携協議会事務局会議】 [ユニバーサルデザインを基軸とした斜里町の小・中連携ランドデザイン] 【小学校への乗り入れ授業開始】 斜里中学校外国語科担当教諭が斜里町内小学校（斜里小・朝日小）に週1時間第5・6学年の外国語活動の授業に参加（各学級担任とのTT）	
6月	【第1回斜里町生徒指導連絡協議会】	
	・教育相談アンケート実施 ・第1回教育相談の実施（1週間） ・非行防止教室 ・自殺予防教育プログラムA-②	
	【斜里中学校区学校間連携協議会第1回会議】	
7月	【小・中学校、夏期休業中における学習サポート第1回】	
	・自殺予防教育プログラムA-③ ・子ども理解支援ツール「ほっと」実施 ・自殺予防教育プログラムB-①	
8月	【小・中学校、夏期休業中における学習サポート第2回】	
	・自殺予防教育プログラムB-②	
9月	・自殺予防教育プログラムC-①②	
	【小学校への出前授業】 題材 地学分野「地層の広がりを考えよう」 中学校教諭を小中連携の一環として、小学校第6学年に派遣し授業を実施	

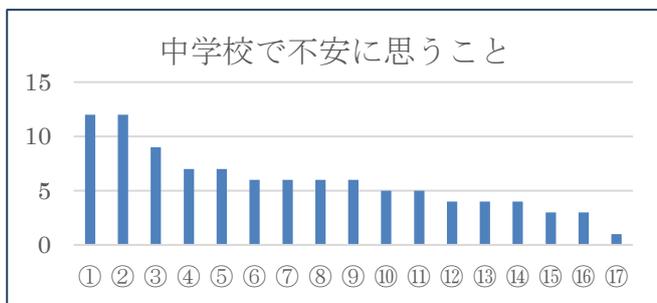
9月	<p>【第1回斜里町中1ギャップ検討委員会】</p> <p>○年間推進計画 ○子ども理解支援ツール「ほっと」の活用</p> <p>○自殺予防教育プログラムの検討 ○学校間合同行事の検討</p>
10月	<p>【子ども理解支援ツール「ほっと」分析・活用に関する研修会】</p> <p>○子ども理解支援ツール「ほっと」の実施方法と結果分析及び指導改善の研修</p> <p>・子ども理解支援ツール「ほっと」小学生実施</p>
11月	<p>【カウンセリング講話 中学校保護者参加】</p> <p>○集団カウンセリング研修 ○ソーシャルスキルトレーニングに関わること</p> <p>・自殺予防教育プログラムC-③④</p> <p>【小・中演劇ワークショップ】</p> <p>○中学校第3学年の生徒が小学校演劇担当児童に指導及び交流</p> <p>【第2回斜里町生徒指導連絡協議会】</p> <p>・第2回教育相談の実施（1週間）</p> <p>【小学校出前授業】</p> <p>題材 音楽分野「みんなで合唱（器楽）を楽しもう」</p>
12月	<p>【第2回斜里町中1ギャップ検討委員会】</p> <p>・薬物乱用防止教室</p> <p>【新入生一日体験入学】</p> <p>○学校説明 ○生徒会行事説明 ○授業見学 ○部活動見学</p> <p>・子ども理解支援ツール「ほっと」実施</p>
1月	<p>【新入生一日体験入学（特別支援学級）】</p>
2月	<p>【ジョイントコンサート】</p> <p>○小学校ジュニアバンド・中学校吹奏楽部によるミニコンサート</p> <p>・子ども理解支援ツール「ほっと」実施</p>
3月	<p>・新入生学習サポートの実施</p> <p>・子ども理解支援ツール「ほっとプラス」実施</p> <p>【小学校出前授業】</p> <p>○中学校指導部・教務部が中学校心構えとして小学校第6学年に授業を実施</p> <p>【第3回斜里町中1ギャップ検討委員会】</p>

6 事業の成果

- 中1ギャップ未然防止事業における取組を推進することにより、小・中学校教師間及び児童生徒間の交流が活性化され、情報提供の場が増え、諸課題を解決する方策を講じやすくなった。中1ギャップでの不登校や問題行動を防ぐためには、小学校在学中から手立てを検討する必要がある、中1ギャップ未然防止の取組の重要性が浸透しつつある。
- 中学校入学後の第1学年を対象に行った「相談アンケート」の実施と分析を行い、中学校生活における不安を具体化し、解決に向けた取組の成果を見ることができた。

アンケート項目	取組実施前（4月）	取組実施後（11月）
中学校生活に漠然と不安を感じる	79名中34名 *全体の43%	79名中17名 *全体の22%
中学校の学習に不安を感じる	79名中52名 *全体の67%	79名中28名 *全体の35%
友人・教師との関係に不安を感じる	79名中25名 *全体の32%	79名中20名 *全体の26%
不登校にならないか心配だ	79名中15名 *全体の19%	79名中7名 *全体の9%

- 小学校第6学年を対象に行った「中学校入学アンケート」の実施と分析を行い、進学に向けた児童の不安を感じる内容を詳細に捉え、児童生徒の場を設けた「しゃべりタイム」の企画等の解決に向けた新たな取組を検討することができた。



中学校で不安に思うこと

No.	項目	%	No.	項目	%
①	勉強が難しい	12	⑩	中学校の校則	5
②	定期・学力テスト	12	⑪	部活動	5
③	違う学校の出身者と仲良くなれるか	9	⑫	授業が50分になる	4
④	授業の進み方が速そう	7	⑬	日課が違う	4
⑤	いじめに会わないか	7	⑭	休日に部活がある	4
⑥	家庭学習の時間が長くなりそう	6	⑮	教科担任制度	3
⑦	クラス替え	6	⑯	勉強する時間が遅い	3
⑧	先輩が怖い	6	⑰	自転車通学	1
⑨	先生が怖い	6			

7 今後の課題

- 中学校のみならず、小学校にも「中1ギャップ未然防止事業」への理解を求め、危機感をもって小学校段階から計画的に取組を推進していく必要がある。
- 現代では生徒を取り巻く環境は多様化しており、スクールカウンセラーや町保健福祉課、適応指導教室、児童相談所等の各関係機関と連携を強化し、様々な情報の共有や対象児童生徒への支援の要請等が円滑に行われるよう「中1ギャップ未然防止事業」の一層の充実を図る必要がある。

◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本推進地域からの提言 ◇◇◇

★ 中1ギャップ未然防止事業の意義の理解及び協力体制の強化

「中1ギャップ未然防止の取組」を推進するに当たり、この事業の存在と意義を周知し、協力体制を確立する必要がある。教育関係機関のみならず、生徒を囲む様々な地域の関係機関と連携し、指導の系統性や児童生徒の発達の段階に応じた指導・支援を段階的に進めていくことが大切である。

★ 児童・生徒の実態把握のための「アンケート調査」の充実

児童生徒の問題を早期に発見するための「アンケート」は必要不可欠である。児童生徒の不安解消に向けた重要な手がかりとして位置付け、その結果を基に小・中学校が連携し、組織的に指導することは有効である。また、その成果と課題を共有し、更なる児童生徒理解に努めるとともに、実態に応じた手立てを柔軟に変化させることが大切である。

音更町立下音更中学校区における中1ギャップ解消プラン

中学校名 音更町立下音更中学校（生徒数 421 名）
 小学校名 音更町立下音更小学校（児童数 279 名）
 音更町立鈴蘭小学校（児童数 530 名）

本プランの特徴

- 小・中学校の円滑な接続を目指した「出前授業」「中学校合唱披露」「中学校授業見学」を行い、児童生徒間の交流及び教職員間の連携を図っています。
- 中学校入学時の不安の軽減を図るため、下音更中学校校区における「学習規律」「生活規律」の統一及び系統的な指導を行っています。
- 不登校の未然防止や早期発見に向けて、「ほっと」及び「hyper-QU」の実施による児童生徒理解の充実を図っています。

1 推進地域の特徴

本町は、十勝の中心にある帯広市の北部に位置しており、管内の町村では最多の人口を抱えている。推進校の校区は、古くからの住宅地と新興住宅地が混在し、多様な商業施設が立ち並ぶ、町内で最も賑わう地域であり、校区に在籍する児童生徒数は町内で最多である。不登校及び別室登校の生徒数は減少傾向にあるものの、推進校の平成 30 年度学校経営方針では、引き続き、不登校対応を最重要課題に掲げている。

2 推進地域の課題

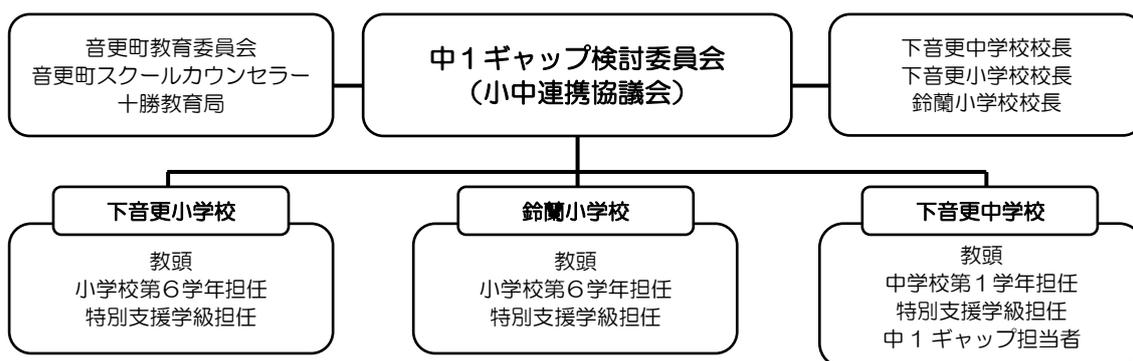
推進校の児童生徒は、基本的な生活習慣・学習習慣は身に付いており、落ち着いている。特に中学校では学習規律が徹底され、学習に対する意欲が高い生徒が多い。しかし、一部の児童生徒には、社会の一員としての自覚や協調性等の社会性が身に付いていないと感じる言動が見られるとともに、集団生活に馴染めない児童生徒が不登校となっている状況が見られる。

そのため、児童生徒の人間関係づくりの力の育成や小・中学校の円滑な接続を目指した学習規律や生活規律の統一を行うことが必要である。

3 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- 中学校に進学した生徒が、学習環境や生活環境等の大きな変化に適応できないなど、夏休み明けに不登校となる傾向があることから、児童生徒の人間関係づくりの力の育成や、小・中学校間の連携の促進、家庭や関係機関との情報共有を図り、いじめ、不登校等の未然防止に努める。
- 小・中学校が連携し、学びの連続性を重視した教育活動を推進する。

4 中1ギャップ検討委員会の組織



5 中1ギャップ解消プランの実際

～小中連携の取組

時 期	音更町立下音更中学校	音更町立鈴蘭小学校 音更町立下音更小学校
4月	【第1回 小中連携協議会】 ○ 小中連携協議会の組織及び年間計画の概要についての確認	
5月	【第2回 小中連携協議会】 ○ 昨年度の取組内容及び成果と課題について確認 ○ 今年度の組織及び推進計画について協議 【中学校区の年間行事予定表作成・配付】 ○ 下音更中学校、鈴蘭小学校、下音更小学校3校の統一した年間行事予定表作成・配付	
6月	○ 「hyper-QU」の実施	○ 鈴蘭小学校参観日授業交流
	【児童会生徒会活動の交流】 ○ 中学校生徒会だよりの各小学校への配付・校内掲示	
	【第3回 小中連携協議会】 ○ 各校における学習規律及び生活規律の交流 ○ 出前授業の計画についての協議 ○ 教職員向け「下音中学校エリア通信」の発行について確認	
7月	○ 下音更中学校参観日授業交流	○ 下音更小学校参観日授業交流
	【出前授業】 ○ 中学校英語担当教員による外国語活動出前授業の実施 ○ 中学校加配教員による算数科出前授業の実施	
	【加配教員の小学校授業参観】 ○ 児童の実態を把握するための加配教員による小学校授業参観	
	【中学校授業見学打合せ】 ○ 中学校授業見学に向けた各校担当者(加配教員、小6担任)による打合せの実施	
8月		○ 鈴蘭小学校参観日授業交流
	【第4回 小中連携協議会】 ○ 中学校授業見学の計画について協議 ○ 出前授業の内容について協議 ○ 学習規律の統一事項について協議 ○ 中学校合唱披露の計画について協議 ○ 中学校第1学年への中学校生活アンケートの実施について協議 ○ 教職員向け「下音中学校エリア通信」の発行	

様式 1

9月	<input type="checkbox"/> 中学校生活アンケート「中学校の実態、生の声アンケートの実施」	<input type="checkbox"/> 「ほっと」の実施、分析 <input type="checkbox"/> 下音更小学校参観日交流
【中学校合唱披露】 <input type="checkbox"/> 小学校第5学年の児童を対象とした中学校文化祭の合唱練習の公開		
10月	【第5回 小中連携協議会】 <input type="checkbox"/> 中学校授業見学実施について確認 <input type="checkbox"/> 小小連携について協議 <input type="checkbox"/> 学習規律の統一事項について協議 <input type="checkbox"/> 1日中学校体験について協議 <input type="checkbox"/> 中学校合唱披露反省 <input type="checkbox"/> 教職員向け「下音中学校エリア通信」の発行	
11月	【中学校授業見学及びグループワーク】 <input type="checkbox"/> 小学校第6学年の児童の中学校授業見学 <input type="checkbox"/> 小学校第6学年の児童と中学校第1学年の生徒のグループワーク	
<input type="checkbox"/> 「hyper-QU」の実施		<input type="checkbox"/> 下音更小学校参観日授業交流 <input type="checkbox"/> 鈴蘭小学校参観日授業交流
12月	<input type="checkbox"/> 北海道カウンセリングICT活用事業の実施 <input type="checkbox"/> 下音更中学校参観日授業交流	<input type="checkbox"/> 「ほっと」の実施、分析
【児童会生徒会活動の交流】 <input type="checkbox"/> 中学校生徒会だよりの各小学校への配付・校内掲示		
【小小連携】 <input type="checkbox"/> 薬物乱用防止教室の実施		
1月	【第6回 小中連携協議会】 <input type="checkbox"/> 中学校1日体験入学の実施について協議 <input type="checkbox"/> 中学校入学説明会の実施について協議 <input type="checkbox"/> 「ほっと」の検証及び分析結果について <input type="checkbox"/> 学習規律の統一について	
2月	<input type="checkbox"/> 中学校1日体験入学 <input type="checkbox"/> 中学校入学説明会 【第7回 小中連携協議会】 <input type="checkbox"/> 中学校1日体験入学及び中学校入学説明会の反省 <input type="checkbox"/> 学習規律の統一事項について <input type="checkbox"/> 今年度の成果と課題について	
3月	【第8回 小中連携協議会】 <input type="checkbox"/> 次年度の日程及び組織確認 <input type="checkbox"/> 教職員向け「下音中学校エリア通信」の発行	

6 事業の成果

- 中学校第1学年の生徒に対して「中学校の実態 生の声アンケート」を実施することにより、中学校第1学年の生徒が、小学校と中学校の生活のどのようなところに違いを感じているか、小・中学校の教員間で把握するとともに、小学校第6学年の児童へ伝えることで、中学校生活のイメージをもつことができ、中学校に対する不安を軽減することができた。
- 「中学校授業見学会及びグループワーク」において、小学校第6学年の児童が、授業見学を通して実際の中学校の様子を知ったり、他の小学校の児童や中学生とグループエンカウンターやグループワークを行ったりすることで、入学前に新しい仲間や中学校教員とのコミュニケーションに対する不安を軽減することができた。
- 子ども理解支援ツール「ほっと」を活用し、児童のコミュニケーションスキルの課題等を的確に把握することにより、児童に寄り添った指導の充実を図ることができた。

【子ども理解支援ツール「ほっと」の各学校の数値の変容】

	因子得点	9月	12月	差
下音更小学校	協調性	80.4	81.8	+1.4
	主張性	69.2	73.1	+3.9
鈴蘭小学校	協調性	79.0	85.3	+6.3
	主張性	74.2	78.7	+4.5

7 今後の課題

- 小・中学校の円滑な接続を確立するために、今年度、統一した中学校区の学習規律の徹底を図るとともに、発達の段階に応じた学習指導の確立を図るなど、授業改善の取組を一層推進する必要がある。
- 不登校児童生徒が、昨年度15名（中1：2名、中2：9名、中3：4名）から、今年度14名（中1：3名、中2：2名、中3：9名）と大きく変わらないことから、早期に不登校の要因分析を行い、要因に応じた早期対応に努めるとともに、短いスパンで改善を図り、より実効性のある取組にする必要がある。
- 「下音中学校エリア通信」を作成し、各学校の教職員に対して小中連携協議会の取組について情報発信を行ったが、小中連携協議会で作成した中1ギャップ解消プランが、各学校の教員に十分に周知されていないことから、全教職員でビジョンを共有するとともに、地域へ情報を発信し、地域全体で、本事業を進めることが必要である。

◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本推進地域からの提言 ◇◇◇

★ 子どもの視点からの「中学校への期待」を高める取組

児童が中学校の授業を見学したり、中学生と交流したりすることにより、中学校の学習や生活への不安を取り除くことができるとともに、小学校の学習が中学校でどのように結び付いているか、見通しをもって学習に取り組むことができた。

★ 目指す子ども像の明確化と共有

小・中連携を推進するためには、共通の目標に向かって取り組む必要があることから、中学校卒業時の「目指すべき子ども像」を明確にし、共有することが重要である。また、「校種間における日常的な情報の共有」、「連携した取組と各校の取組の整理」を行い、取組を進めることが大切である。



【中学校の実態生の声アンケート】



【交流グループワークの様子】



【中学校授業見学の様子】

標茶町立標茶中学校区における中1ギャップ解消プラン

中学校名 標茶町立標茶中学校（生徒数 156名）
 小学校名 標茶町立標茶小学校（児童数 290名）
 標茶町立磯分内小学校（児童数 30名）
 標茶町立沼幌小学校（児童数 17名）

本プランの特徴

- 各学校の特別活動（学校行事）、総合的な学習の時間の指導内容を交流し、系統的な学びができるよう指導計画を作成、運用しています。
- 各種調査や検査を活用し、その結果を分析しながら一人一人の理解を深め、指導の場面に生かせるよう、組織的に対応しています。
- 不登校未然防止及び小・中学校の円滑な接続や新入生の不安を取り除くため、「新入生体験入学」「小学校学習会への中学校教員の派遣」「出前授業」「地域公開参観日」などを実施しています。

1 推進地域の特徴

推進地域である標茶町は、2つの国立公園を有する広大な面積を有し、基幹産業が酪農の町である。平成30年3月現在、世帯数3,668世帯、人口は7,711人である。

当该校がある市街地は、社会教育が盛んであり、町内会が中心となり、地域の活動が運営され、PTA活動も地域との連携が図られており、保護者の教育への関心は高い。子どもたちの生活環境は自然に恵まれ、体育館、公園、図書館等社会教育施設も充実している。

2 推進地域の課題

中学校の生徒は、学校生活において、互いの考えを尊重し合うなど、共感的な人間関係をつくり、物事に取り組む姿が見られた。また、「ほっと」、「ほっとプラス」、「Q-U」の結果から、学年が上がるにつれて学校生活の満足度が高まる傾向が明らかとなった。一方、卒業後の進路等、社会的・職業的自立に向けた意識を高めることや、その場の状況に合わせて、臨機応変に対応する力、困難を乗り越えようとするたくましさや耐性に課題が見られた。

小学校の児童は、物事に対して誠実に取り組む児童が多いものの、小学校入学時から人間関係の変化がほとんどないこともあり、友達と積極的に関わろうとする態度やコミュニケーション力の育成に課題が見られた。

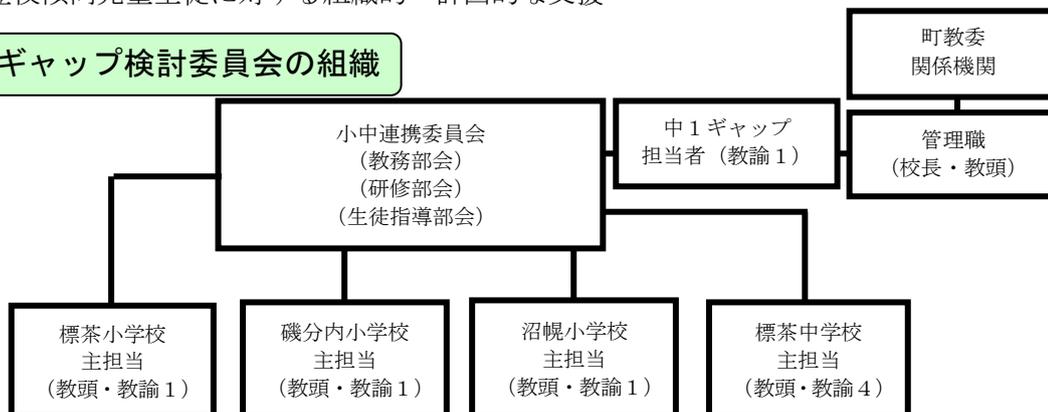
3 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

「いじめゼロ、不登校ゼロを目指して！」

～良好な人間関係を築き、誰もが安心して生活できる学校づくり～

- 事業推進体制の整備
- 人間関係づくりの能力の育成を図る小・中学校の円滑な接続
- 学習指導や生徒指導の小・中学校の円滑な接続による工夫改善
- 不登校傾向児童生徒に対する組織的・計画的な支援

4 中1ギャップ検討委員会の組織



5 中1ギャップ解消プランの実際

□～小中連携の取組 ○～学校の取組 ■～児童会・生徒会の取組

時 期	標茶町立標茶中学校	標茶町立標茶小学校 標茶町立磯分内小学校 標茶町立沼幌小学校
3月	【新入学生徒に関する引継ぎ】 ○ 学習、生活、交友関係等の状況及び配慮事項についての確認 ○ 個別の指導計画を活用した特別な教育的支援を必要とする生徒についての確認	
4月	○ 学校いじめ防止基本方針等の共通理解 ・学校いじめ防止基本方針の目的や内容について ・組織の設置について ・重大事態への対応について (シミュレーション) ○ 春の教育相談週間 ■ あいさつ運動(通年)	○ 学校いじめ防止基本方針等の共通理解 ・学校いじめ防止基本方針の目的や内容について ・組織の設置について ・重大事態への対応について (シミュレーション) ○ 「ほっと」の実施 ■ あいさつ運動週間(通年)【磯分内小】 ■ 全校あそび(通年)【沼幌小】 ■ おしゃべりタイム(通年)【沼幌小】
【授業参観日】 ○ 学習規律や学習過程の確認 ○ 児童の実態把握 【年4回】		
5月	【中1ギャップ未然防止事業の共通理解】 ○ 事業の目的及び重点目標等の確認 ○ 小中連携の方向性の確認	
	○ 生徒指導研修 ・事例研究 ・生徒指導の3つの機能を生かした授業 ○ いじめアンケートの実施 ○ 「担任への手紙」①	○ いじめアンケートの実施 ○ いじめアンケート及び「ほっと」の結果を活用した個別の教育相談の実施 ■ 「ありがとうボックス」の取組 (よりよい人間関係づくり)【標茶小】
6月	■ 体育祭 (A団・B団による団練習～異学年交流)	
7月	○ いじめアンケートの結果等を活用した個別の教育相談の実施 ○ 「ほっと」の実施	
【第1回小中連携委員会の開催】 ○ 事業内容等の確認 ○ 児童生徒の実態交流 ○ 小中連携の内容に係る意見交換		
8月	【小学校の学習会への教員派遣】 ○ 小学校第6学年対象の学習会に参加し、学習支援を実施	【夏休み学習会の実施】 ○ 学年ごとに学習会を実施
	○ 「ほっと」の分析による学級及び個人の実態交流 ■ いじめ根絶標語づくり ○ 秋の教育相談週間(～9月)	○ 「ほっと」の分析による学級及び個人の実態交流 ○ 言葉遣いの指導 ■ いじめ根絶標語づくり(第4～6学年)【標茶小】
9月	○ 「ほっと」の教職員共通理解 ■ 縦割り地区遊び(異学年交流)【標茶小】 ■ いじめ根絶標語づくり【沼幌小】	

<p>10月</p>	<p>■ ほんわか・ちくちく言葉アンケート</p>	<p>■ 縦割り地区遊び（異学年交流）【標茶小】 ■ いじめ根絶標語掲示【沼幌小】</p>
<p>【小中連携委員会教務部会】</p> <p>○ 小・中学校の学習規律の比較及び共通の取組の検討</p>		
<p>11月</p>	<p>○ いじめアンケートの実施 ○ 「担任への手紙」② ○ いじめアンケートの結果を活用した個別の教育相談の実施 ○ 自殺予防プログラムに基づく授業の実施 ■ いじめ根絶ポスター掲示</p>	<p>○ いじめアンケート及び「ほっと」の実施 ○ いじめアンケート及び「ほっと」の結果を活用した個別の教育相談の実施 ■ 縦割り地区遊び（異学年交流）【標茶小】</p> <p style="text-align: center;">「どさんこ☆子ども地区会議」へ 児童会書記局が参加【標茶小】</p> <p style="text-align: center;">【小小連携の取組】</p> <p>○ 3校の第6学年児童が交流会を実施 ○ 学級活動での自己紹介・交流、給食会食</p> <p style="text-align: center;">【小中連携委員会生徒指導部会】</p> <p>○ 児童会・生徒会の取組の交流 ○ 年度末の引継ぎの在り方の検討</p> <p style="text-align: center;">【標茶中学校新入生体験入学及び保護者説明会】</p> <p>■ 学校生活等についての説明（生徒会書記局） ○ 部活動及び同好会活動の紹介（各部長） ○ 体験授業（数学科、理科、外国語科、特別支援教育）</p>
<p>12月</p>	<p>○ 「ほっと」の実施 ■ 生徒会企画（異学年交流）の実施</p>	<p>■ 縦割り地区遊び（異学年交流）【標茶小】</p> <p style="text-align: center;">【小中連携委員会研修部会】</p> <p>○ 小・中学校で共通した授業スタイルの検討 ○ 各教科の授業実践交流の企画</p> <p style="text-align: center;">【授業実践交流】</p> <p>○ 国語科、算数・数学科、理科、社会科、外国語活動・外国語科 ○ 研修部会による交流内容の情報発信</p> <p style="text-align: center;">【標茶町いじめ根絶子ども会議】</p> <p>■ 町内小中学校の代表児童生徒による1学校1運動の取組発表及び交流 ■ いじめ根絶の取組に係る意見交換</p>
<p>1月</p>	<p>○ 「ほっと」の分析による学級及び個人の実態交流 ■ ほんわかストーリーアンケート</p> <p style="text-align: center;">【小学校の学習会への教員派遣】</p> <p>○ 小学校第6学年対象の学習会に参加し、学習支援を実施</p>	<p>■ 「ありがとうボックス」の取組の学級紹介【標茶小】</p> <p style="text-align: center;">【冬休み学習会の実施】</p> <p>○ 学年ごとに学習会を実施</p>
<p>2月</p>	<p>○ 「担任への手紙」③ ■ ほんわかストーリー掲示</p> <p style="text-align: center;">【中学校教諭による出前授業】</p> <p>○ 3校の第6学年児童が標茶小学校を会場に標茶中学校教諭による体験交流授業を実施</p>	<p style="text-align: center;">【小小連携の取組】</p> <p>○ 3校の第6学年児童が交流会を実施</p>

3月	<div style="border: 2px solid #0056b3; border-radius: 10px; padding: 10px; background-color: #d9ead3;"> <p>【第2回小中連携委員会の開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度の取組の成果や課題の交流 ○ 次年度の取組の方向性の確認 </div>
----	---

6 事業の成果

- 2学期に加配教員が第1学年生徒に学校生活について、自由記述によるアンケート調査を行ったところ、「中学校生活は楽しいですか」「学校行事についてどう思いますか」「中学校の先生方の指導はどうですか」の質問に対して肯定的な回答が多く見られた。

【第1学年へのアンケート】

設 問		30年度	29年度	28年度
中学校生活は楽しいですか。	肯定的 (%)	98	93	61
	否定的 (%)	2	7	39
学校行事についてどう思いますか。	肯定的 (%)	100	93	71
	否定的 (%)	0	7	29
中学校の先生方の指導はどうですか。	肯定的 (%)	100	98	84
	否定的 (%)	0	2	16

- 第1学年生徒を対象とした「体育祭」「文化祭」に係るアンケート結果から、生徒が自ら創意工夫をしながら主体的に活動することや仲間と協働することで大きな行事を成し遂げていくことに充実感や達成感、所属感などを味わい、学校生活の中でより主体的・協働的に活動ができるようになってきている様子が見られた。また、上級生と一緒に行事に取り組む異学年交流を位置付けたことにより、中学校生活への不安を取り除くことができたと考えられる。

7 今後の課題

- 学校として不登校生徒の要因の傾向を捉え、より適切な支援に向けた取組を検討し、組織的な取組を一層充実させる必要がある。
- 生徒の人間関係を育成する取組や中学校教員による出前授業等がイベントとならないよう、育成すべき資質・能力を明確にした取組を進めるとともに、教育課程の改善につなげる必要がある。

◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本推進地域からの提言 ◇◇◇

★ 未然防止・・・キーワード「情報の共有」

児童生徒の実態や各学校における特別活動や総合的な学習の時間の学習内容について把握し、授業交流、出前授業、学習会の協力、体験入学などの活動を関連付けて行うことで、中学校入学前の児童の不安を解消し、中学校生活への期待感を高めるようにしていく。

★ 早期発見・・・キーワード「観察と相談」

全教職員が、普段から児童生徒とのコミュニケーションを積極的にとりながら、小さな変化を見落とさないようにしている。また、定期的な教育相談を実施し、児童生徒の内面を知る機会を設けている。そこで得た情報を小小連携・小中連携のポイントとして共有し、各種活動時の指導に役立てていくようにしていく。

★ 早期対応・・・キーワード「チーム学校」

日常の児童生徒の様子や、「ほっと」等の各種調査結果を共有することで、統一された対応がされるようにしている。また、教職員だけではなく、スクールカウンセラーや保護者、各関係機関と連携をとりながら対応をとることで、早期対応に努めることができるようにしていく。

中標津町立中標津中学校区における中1ギャップ解消プラン

中学校名	中標津町立中標津中学校（生徒数 395 名）
小学校名	中標津町立中標津小学校（児童数 398 名） 中標津町立丸山小学校（児童数 317 名）

本プランの特徴

- 児童生徒理解の充実に向け「アセス」「ほっとプラス」、生活アンケートの実施等、客観的なデータを基に分析を行っています。
- 中標津町教育力向上推進協議会の諸事業と連動して、小・中学校と連携を図っています。
- 円滑な小・中学校の接続による中学校生活への不安解消を図るため、中学校教員による小学校訪問や詳細な引継ぎ、入学後に保護者へ、中学校生活に係るリーフレットの配付を行っています。

1 推進地域の特徴

本中学校区は、平成 30 年度より、校区の教育目標を統一し、平成 32 年度から実施する「中標津町小中一貫型小学校・中学校」に向けて意図的・計画的な取組を組織的に進めている。中でも、不登校やいじめ問題などの共通課題の取組を進め、「中1ギャップ」の解消を目標としている。

2 推進地域の課題

中学校第1学年に進学した際、新たな環境に不登校の子どもの数が増加しているほか、いじめの認知件数も増加している状況が見られる。その背景として、社会的スキルの定着が不十分等の個人的な要因や、家庭的な要因を抱えた子どもが小学校から中学校へ進学する際、学習環境や生活環境等の大きな変化に適応できないといった小・中学校間の接続における「中1ギャップ」問題が1つの要因として考えられる。

3 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- 小・中学校間の連携・接続の在り方の工夫や、義務教育9年間の学び（学習面）と育ち（生活面）の連続性を重視した系統的な指導の充実を図る。
- コミュニケーション能力の育成や他者との関わりを通して、児童生徒の社会的スキルの向上を図る。

4 中1ギャップ検討委員会の組織

中1ギャップ検討委員会

- 会 長：中標津町立中標津中学校 校長
- 事務局：小中連携コーディネーター・加配教員【企画調整、情報発信】

中標津町立
中標津中学校
○教頭 ○加配教員
(2名)

中標津町立
中標津小学校
○教頭 ○教務主任
(2名)

中標津町立
丸山小学校
○教頭 ○主幹教諭
(2名)

中標津町
教育委員会
○指導室長
(1名)

5 中1ギャップ解消プランの実際

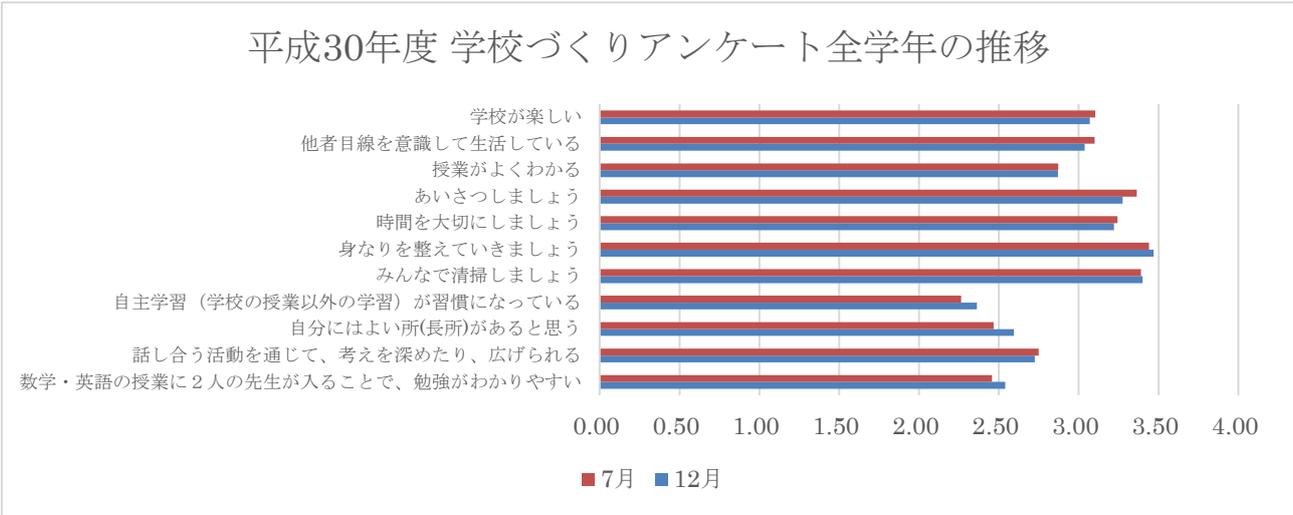
～小中連携の取組

時期	中標津町立中標津中学校	中標津町立中標津小学校 中標津町立丸山小学校
3月	<p>【校区校長】 ○学校の教育目標の共通化</p> <p>【新生生に関する引継ぎ】 ○学習、生活、交友関係、家庭環境等の状況及び配慮事項についての確認 ○特別な教育的支援を必要とする児童についての情報共有 ○食物アレルギーに関して特別な配慮を要する児童の確認 ○中学校教職員の引継ぎ資料の共有</p>	
4月	<p>○生徒指導方針、学校いじめ防止基本方針、緊急時の対応等の確認 ○生徒の状況（集団・個別）について確認 ○各学年で学年集会（仲間づくりの活動）</p> <p>【中1ギャップ検討委員会（小中連携推進会議）】 ○年間推進計画の確認 ○中1ギャップ解消プランの作成</p>	<p>○生徒指導方針、学校いじめ防止基本方針、緊急時の対応等の確認 ○子ども支援会議</p>
5月	<p>○全学年/第1回「学校づくりアンケート」 ○いじめ把握のためのアンケート</p> <p>【中1ギャップ検討委員会（小中連携推進会議）】 ○3校のかかわり構造図作成 ※事業の焦点化 ○学力・体力の向上に係る交流 ○スキル学習についての提案 ○児童生徒理解への情報交流（小学校学習内容の定着状況の共有）</p>	<p>○学習規律、家庭学習振り返りアンケート ○担任交流期間(学級担任を入れ替える取組)</p>
6月	<p>○フリー参観日 ○第1・2学年/ブックトーク ○第1学年/スクールカウンセラーによる授業「ストレスとの向き合い方」 ○全学年「アセス」の実施</p> <p>【中1ギャップ検討委員会（小中連携推進会議）】 ○学力テストの結果 ○業務内容・方向性の確認 ○構造図について ○公開研の確認 ○年間行事計画の確認 ○一貫教育コーディネーターによる児童生徒理解への情報交流、授業参観 ○「特別の教科」道徳の評価 ○アセス、生活アンケートの結果交流</p>	<p>○いじめ把握のためのアンケート ○職業講話 ○アセスの実施 ○仲間づくり活動（全校集会）</p>
7月	<p>○全学年/第2回「学校づくりアンケート」 ○全学年/ソーシャルスキルトレーニング「やさしい頼み方を身に付けよう」 ○全学年/ソーシャルスキルトレーニング「上手な断り方を身に付けよう」</p> <p>【中1ギャップ検討委員会（小中連携推進会議）】 ○3校のかかわり構造図の再考（事業の中間評価・改善）</p>	<p>○学習規律、家庭学習振り返りアンケート ○修学旅行（集団生活や公共マナーの学習・仲間づくり活動） ○スクールカウンセラーによる面談 ○子ども支援会議（アセス分析） ○学習に関するアンケート実施</p>
8月	<p>○生徒指導にかかわる全体研修 ※段階による個別の支援シート作成 ○全学年/ソーシャルスキルトレーニング「自分を大切にしよう」</p>	<p>○学びの武佐岳（学習規律）の取組 ○子ども支援会議（学習に関するアンケート結果分析）</p>

様式 1

8月	<p>【中1ギャップ検討委員会（小中連携推進会議）】</p> <p>○児童会・生徒会三役の交流について</p>	
9月	<p>○生徒指導にかかわるマネジメントチーム設置</p> <p>○第1学年/特別活動スクールサポーターによる「いじめ防止教室」</p> <p>○学校公開週間</p>	<p>○e-ネット安心講座</p> <p>○学習規律、家庭学習振り返りアンケート</p> <p>○スクールカウンセラーによる面談</p> <p>○仲間づくり活動（児童会異学年交流）</p>
	<p>【中1ギャップ検討委員会（小中連携推進会議）】</p> <p>○生活アンケートの分析</p> <p>○全国学力・学習状況調査の結果の交流</p>	
10月		○仲間づくり活動（学芸会）
	<p>【中1ギャップ検討委員会（小中連携推進会議）】</p> <p>○中学校教員による小学校訪問に係る計画の提案</p> <p>○児童の中学校訪問に係る計画の提案</p> <p>○地域行事、学校行事における児童生徒交流</p>	
11月	<p>○学校公開週間</p> <p>○全学年「アセス」の実施</p> <p>○どさんこ☆子ども根室地区会議への参加</p> <p>○いじめ把握のためのアンケート</p> <p>○教育相談</p> <p>○「ほっとプラス」の実施</p>	<p>○いじめ把握のためのアンケート</p> <p>○中学校体験</p> <p>○どさんこ☆子ども根室地区会議への参加</p> <p>○警察署との連携による携帯・スマホ教室</p>
	<p>【中学校1日体験入学】</p> <p>○中学校における体験活動の実施</p>	
12月	<p>○全学年/第2回「学校づくりアンケート」</p>	<p>○学習規律、家庭学習振り返りアンケート</p> <p>○学習に関するアンケート実施</p>
	<p>【3校合同研修会】</p> <p>○合同研修会の実施</p>	
1月	<p>○学校課題改善会議</p> <p>○新入生保護者説明会</p>	<p>○中学校進学を意識した学習指導</p> <p>○仲間づくり活動「長縄チャレンジ」</p> <p>○学習に関するアンケート結果分析</p>
	<p>【中1ギャップ検討委員会（小中連携推進会議）】</p> <p>○「中1ギャップ検討委員会」による生活アンケートの分析、交流</p>	
2月		○仲間づくり活動「児童会異学年交流」
	<p>【中1ギャップ検討委員会（小中連携推進会議）】</p> <p>○「中1ギャップ検討委員会」による中1ギャップ解消プラン ～次年度に向けて～</p>	
3月	<p>○第1学年/保健「ストレス対応能力の育成」</p> <p>○第1学年/保健「ストレス対応能力の育成（失敗を見つめなおす）」</p>	<p>○学習規律、家庭学習振り返りアンケート</p> <p>○進級、進学に向けての1年間の反省</p> <p>○キャリア学習（中学校の日課や活動）</p> <p>○仲間づくり活動（6年生を送る会）</p> <p>○きめ細やかな引継ぎ</p>
	<p>【中1ギャップ検討委員会（小中連携推進会議）】</p> <p>○小・中学校間での児童生徒の学習状況や生活状況等の引継ぎの工夫改善</p> <p>○今年度の反省・中1ギャップ解消プランの見直しと次年度の計画</p>	

6 事業の成果



- 上記のアンケートの結果から、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングの学習を通して、周囲とのつながりが深まり、生徒の他者理解、自尊感情の醸成につながった。
- 小・中合同研修会において、児童生徒の学習上の課題を共有し、解決に向けた方策について話し合うことで、ティーム・ティーチングの充実など、具体的な授業改善につながった。
- 連携校3校のかかわりを構造図で「見える化」し、事業内容の焦点化を図ることで、加配教員を中心に、各校のコーディネーターが中核となって小中連携を効果的に進めることができた。
- 加配教員を不登校の未然防止、早期発見・早期対応に係る支援チームの中核に位置付け、生徒理解に基づいた組織的な支援を行ったことにより、人間関係の修復やトラブルの解決につながり、長期欠席の解消が図られたケースが複数あった。

7 今後の課題

- 生徒にとって、身に付けるべきソーシャルスキルは多様であり、発達の段階に合わせた年間計画を作成することが必要である。
- 「9年間を通し各教科でどのような力を身に付けるか」という視点を持ち、具体的な方策について、本中学校区で検討していく必要がある。
- 不登校傾向が見られ始めた生徒の背景や要因が、多岐にわたり複合的であるため、解決へ向けた取組の更なる工夫が必要である。

◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本推進地域からの提言 ◇◇◇

★ 計画的・組織的な児童生徒理解と既存のプログラム、組織の活用による支援体制の充実
 「中1ギャップ解消」に向けて、本中学校区にかかわる全ての教職員の共通理解の下、計画的・組織的に児童生徒理解を深めることで、不登校の未然防止に向けた具体的な取組を行う。また、町の教育力向上推進事業、道教委の授業改善等支援事業や「自殺予防教育プログラム」などの既存の事業や組織と連携を図りながら、推進体制を整えることが必要である。

★ 各種アセスメントツールを活用したきめ細やかな引継ぎの充実
 「アセス」「Q-U」「ほっとプラス」等のアセスメントツールを積極的に活用し、具体的な数値を基に引継ぎを行うことで、不登校の未然防止、早期発見、早期対応につなげることができる。また、小学校から継続して実施することで成長の様子や変容が明確に把握でき、生徒指導上の小中共通の指標として有効である。